このプロジェクターを使用する前に、本マニュアルをお読みください

# RLM W12

USER'S GUIDE

# 取扱説明書

PICTURE BY DLP TEXAS INSTRUMENTS

BARCO

Visibly your

索引


## 警告、通知および安全に関する指示 4

通知 4
FCC基準パート15に関する説明: 4
警告および安全に関する指示 5
プロジェクターを取り付ける前に読む必要のある通知 7

## プロジェクターの部品と機能 10

正面図 10
背面図 10
底面図 12
有効なリモコン信号受信の範囲 13
リモコンの電池を取り付ける 13

## プロジェクターの素早い取り付け 14

投影距離 17
設置方法 17
水平および垂直レンズシフト 19

## プロジェクターを取り付ける 20

プロジェクターを他のデバイスに接続する 20
12V Trigger接続 20
RGB接続 21
RGBs接続 22
IR入力接続 22
S-Video/ビデオ接続 23
コンポーネント接続 23
ステレオDVI接続 24
プロジェクター電源オン 25
OSD言語を変更する 25
画面方向を調整する 26
プロジェクターレンズを調整する 27

## リモコンを使用する 28

## OSDメニューの説明 30

## OSDメニューツリー 30

OSD説明 32
入力 32
画像 35
レイアウト 43
ランプ 45
調整 47
コントロール 53
サービス 56

## ランプとフィルターの保守 57

ランプ交換 57
フィルターを清掃する 58

## LEDインジケータの簡単なトラブルシューティングと定義 59

LEDステータス 60

## プロジェクターの仕様 61

# 通知

お使いのプロジェクタのモデル番号とシリアル番号を書き留め、その情報を保管して保守の必要が生じた際は参照してください。機器を紛失したり盗まれたりした場合、警察調書用にこの情報を使用することもあります。

モデル番号:

シリアル番号:

次のリストでプロジェクタに同梱されている付属品を確認してください。付属品が足りないときは、直ちに販売店にご連絡ください。

1: 米国仕様の電源コード*1
2: 欧州連合仕様の電源コード*1
3: 中国仕様の電源コード*1
4: リモコン *1
5: 単三バッテリ *2
6: 取扱説明書 *1
7: セットアップマニュアル *1
8: 安全マニュアル *1
9: 保証書 *1
10: WEEE通知カード *1
11: CD ROM *1

# FCC基準パート15に関する説明:

本装置は、FCC基準パート15に準ずるクラスAのデジタル電子機器の制限事項に準拠しています。これらの制限事項は、住宅地域で使用した場合に生じる可能性のある電磁障害を規制するために制定されたものです。

本装置は無線周波数エネルギーを生成して使用し、また放射します。指示に従って正しく設置しなかった場合は、ラジオやテレビの受信に障害を及ぼす可能性があります。しかしながら、特定の設置状況においては電波障害を起こさないという保証はありません。本装置がラジオやテレビの受信に障害を与えていないかを判断するには、本装置の電源を切り、入れ直してみます。受信障害が発生している場合には、以下の方法で受信障害を改善することをお薦めします。

- 受信アンテナの方向または設置位置を変える。
- 本装置と受信機の距離を離す。
- 本装置を受信機の電源とは別の電源に接続する。
- 販売店やラジオ/ビデオの専門技術者に問い合わせる。

このクラスAデジタル機器はカナダICES-003規格の全ての要件を満たしています。

Cet appareil numérique de la classe A est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

本製品のランプには水銀が含まれています。本製品には、不適切に処理した場合有害となるその他の家電系廃棄物が含まれている可能性があります。廃棄またはリサイクルに関する地方自治体や国の規制を参照してください。

詳細については、米国電子工業会(WWW.EIAE.ORG)にお問い合せください。
適切なランプ処理の詳細については、WWW.LAMPRECYCLE.ORGを参照してください。

# 警告および安全に関する指示

## レーザー光線に対する特別注意！

DLPプロジェクタと高出力レーザー装置が同じ部屋で使用されているとき、特別な注意を払う必要があります。

レーザー光線やプロジェクタのレンズを直接打ち付けると、Digital Mirror Devices (DMD™)がひどく損傷する可能性があります。

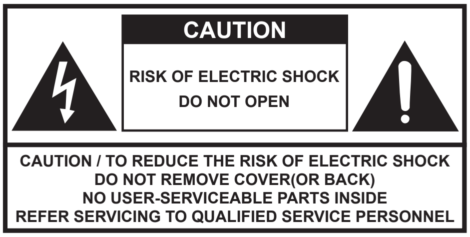
## 日光の警告

直射日光にさらされている場所でのRLM W6の使用そ避けてください。

プロジェクタのレンズに直射日光が当たると、Digital Mirror Devices (DMD™)がひどく損傷する可能性があります。

## プロジェクターの光源を絶対にのぞき込まないでください。

本装置には高輝度の光源が含まれており、プロジェクターの放出する光の一部は紫外線です。プロジェクターの光源は絶対にのぞき込まないでください。また、お子様がプロジェクターの光源を見ないように特別な注意を払ってください。見つめると目を損傷する可能性があります。



The lightning flash with an arrowhead within a triangle is intended to tell the user that inside this product may cause risk of electrical shock to persons.

The exclamation point within a triangle is intended to tell the user that important operating and/or servicing instructions are included in the technical documentation for this equipment.

## 電源コードを外してプロジェクターの電源を切らないでください。

通常の操作をしている場合、内部冷却ファンはプロジェクターの電源をオフにした後、遮断プロセスが完了するまで約90秒作動を続けるため、プロジェクターの電源をオフにするにはソフト電源ボタンを必ず使用してください。また同様に、プロジェクターの電源をオフにするのにAC電源を遮断しないでください。ランプが故障したり損傷する原因となります。

## 感電

プロジェクターを保護するために、雷が鳴っている間はプロジェクターの電源をオンにすることは避け、壁コンセントからプラグを抜いてください。こうすることで、雷に起因する突然の電源サージでプロジェクターが損傷するのを避けることができます。

## 壁コンセント/延長コードに過負荷をかけないでください

使用しているコンセントの電流負荷に注意を払い、火災や感電を防ぐために壁コンセントや延長コードのコンセントを使用するようにしてください。

## 清掃

プロジェクターを清掃する場合は、感電の原因となるため必ず壁コンセントからプラグを抜いてください。

液体またはエアゾールクリーナーを使用しないでください。清掃には、乾いた布または余分な水分のない湿った布を使用してください。摩擦によるプロジェクターケースの損傷の原因となるため、プロジェクターのモニターの清掃用にデザインされた清掃用布を必ず使用してください。

## 湿気、煙、蒸気、埃、高温、直射日光への暴露

湿気、煙、蒸気、埃、高温、直射日光にさらされる環境でプロジェクターを操作しないでください。例: 浴室、台所、洗濯機の傍、湿った地下室、ヒーターまたは類似環境。上記の環境下にプロジェクターを保管したり操作したりすると、退色、かびの発生、油汚れ、プロジェクターの損傷の原因となります。

## 換気

プロジェクタケースは、コンポーネントが過熱したり損傷したりしないように、スロットと開口部でプロジェクター内部の熱を取り除くように設計されています。プロジェクターは望ましい換気が施された環境で操作し、ソファやじゅうたんの上または換気を遮るその他の密閉環境で操作しないでください。

## 異物の侵入

プロジェクターに異物が入らないように注意してください。異物が入ると、危険な高圧にさらされて部品がショートする可能性があります。これにより、火災または感電が引き起こされることもあります。異物の例には、 ゴキブリ、ねじ、液体などが含まれます。

また、液体がプロジェクター内部にこぼれないようにしてください。

## プロジェクターを持ち運ぶ

カートに乗せてプロジェクターを移動するとき、カートの取り扱いには十分ご注意ください。突然の停止や過度の衝撃またはでこぼこの地面によりプロジェクターが倒れる可能性があります。

## プロジェクターは平らで安定した面に取り付けてください

プロジェクターを不安定なカート、三脚、テーブルなどの上に置くのは避けてください。プロジェクターが落ちて、損傷したり人が負傷したりする原因となります。

## 修理

プロジェクターに何らかの問題が発生した場合、最寄りの販売店または専門技術者にお問い合せください。高圧やその他の潜在的危険にさらされる危険があるため、プロジェクターを自分で修理しないでください。

次のどれかの状況が発生したら、壁コンセントからプロジェクターのプラグを抜いて専門技術者に処置をお問い合せください。

- 電源コードや電源プラグが損傷した。
- 異物がプロジェクター内部に落ちた、または水またはその他の液体をプロジェクター内部にこぼした。
- プロジェクターを間違って落とした、またはプロジェクターが損傷した。
- 指示に従って通常の操作をしたにもかかわらず、プロジェクターの性能が著しく落ちたり誤動作を起こすようになった。

### 部品を交換する

プロジェクターの部品が損傷した場合、交換部品にはメーカーの認定した部品以外は使わないように修理スタッフに確認してください。認定されていない部品を使うとプロジェクターが損傷したり、火災や感電などの危険がもたらされる場合もあります。部品の交換後は、プロジェクターが正常に作動することを確認するために修理スタッフに安全点検を行うように依頼してください。

### 電源コード

電源コードが踏まれるような場所にプロジェクターを設置しないでください。電源コードの、特に、プラグや電源コードとプロジェクターの間の連結点が擦り切れたり損傷する原因となります。

プロジェクターに付属する電源コード、またはプロジェクターに指定されるタイプの電源コードを使ってください（電源コードについては、付属の印刷された説明書を参照してください）。お住まいの地域で使用されている電源がよく分からない場合、間違った電源コードの使用によるプロジェクターの損傷や過負荷による火災を避けるために、最寄りの電力会社にお問い合せください。

居住する国や地域によっては、電圧や壁コンセントのソケットのタイプがプロジェクターと異なることがあります。壁コンセントに電源プラグが合わない場合、最寄りの販売店にご相談ください。電源プラグの余分なピンを取り外してソケットに無理に差し込まないでください。ご自身の安全が損なわれることがあります。

## プロジェクターを取り付ける前に読む必要のある通知

### ランプに関連する安全の問題

本製品のランプには水銀が含まれています。ランプが壊れた場合、ガラスの破片を注意して処理し、十分に換気してください。体に害のある水銀の蒸気を吸い込まないように、清掃の前には適切な保護マスクを必ず着用してください。ランプ交換の詳細については、「56ページ: ランプ交換」を参照してください。

### 頻繁に休憩を取って目を休ませる

プロジェクターの画面を長く見続けていると、目が疲れることがあります。目は、適度に休ませるようにしてください。

### プロジェクターの取り付け環境

過度に湿気や埃、煙の多い場所にプロジェクターを設置しないでください。そのような環境への取り付けが避けられない場合、*プロジェクターの内部を定期的に清掃してプロジェクターの寿命を延ばすようにしてください*。プロジェクター内部の清掃は最寄りの販売店が派遣する専門のサービス業者に任せ、絶対に自分で清掃しないようにしてください。

# 警告、通知および安全に関する指示

プロジェクターの画面に他の光源が直接投射している場合、プロジェクターの画像の色が淡くなったり画像品質が落ちることになります。さらに、目も疲れやすくなります。

従って、プロジェクターを直射日光やその他の強い光源にさらされない場所に取り付けることをお勧めします。

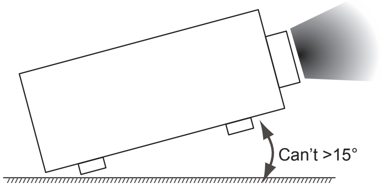
プロジェクターの最適な動作温度範囲は0°C～40°Cの間です

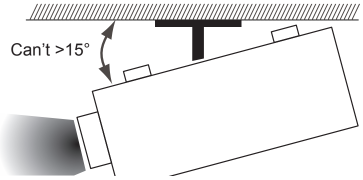
プロジェクターの最適な保管温度範囲は、0°C～40°Cの間です。

## プロジェクターを15度以上傾けないでください。

プロジェクターの最大の傾き角度は15度です。

プロジェクターを15度以上傾けると、プロジェクターのランプの寿命が短くなり、他の予期しない損傷が引き起こされることとなります。




## 高高度でのプロジェクター操作の設定

プロジェクターを高高度で操作するとき、*必ずファンモードを「高」に手動で設定してください。*そうでないと、プロジェクターの光学システムの寿命が短くなります。高高度は1500メートル以上の高さとして定義されます。

「45ページ: 高高度モード」を参照してください。

## プロジェクターの換気用の吸気口と排気口の周りに物体を置かない

プロジェクターの換気用吸気口と排気口から30cm以内に物を置かないようにし、空気が指定した取り付けスポットの方向に流れていることを確認してください。排気口から出る熱い空気が吸気口に流れ込まないようにしてください。適切な冷気が妨げられ、プロジェクターの内部構造が損傷する原因となります。

換気用の吸気口と排気口が塞がれたために内部冷却ファンが誤動作を起こし高温が発生すると、プロジェクターは自動保護モードを起動し遮断します。この状況は、装置の誤動作ではありません。壁コンセントから電源コードを抜き約15分待ってから、プロジェクターの操作を再開してください（プロジェクターが再び保護モードに入らないように、換気を妨げる原因となる物を取り除くのを忘れないでください）。「59ページ: LEDステータス」の定義を参照してください。

説明: 冷却ファンによるプロジェクター内部の温度調整は自動的に行われます。従って、動作速度を変える冷却ファンの音は、プロジェクターに問題が発生したことを意味しません。

## プロジェクターを注意して保護する

高い位置にプロジェクターを設置するとき、落下して負傷しないようにプロジェクターをしっかり固定してください。プロジェクターのレンズを衝突、摩擦またはその他の損傷から保護してください。プロジェクターを保管したり、長期間使用する予定のない場合、レンズカバーを閉じるかプロジェクターをダストカバーで覆ってください。

## 製品に含まれる有害/危険物質の名前と量

Please refer to below Table for the names and contents of the toxic or hazardous substances or elements contained in electronic information products.

### Marking Styles for Names and Contents of Toxic or Hazardous Substances or Elements

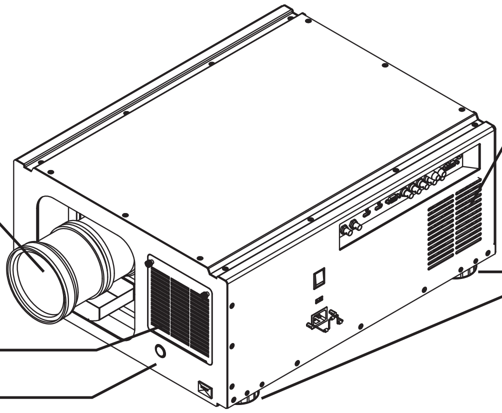
| Part Name | Toxic or hazardous Substances and Elements | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | Lead (Pb) | Mercury (Hg) | Cadmium (Cd) | Hexavalent Chromium (Cr(VI)) | Polybrominated biphenyls (PBB) | Polybrominated diphenyl ethers (PBDE) |
| Optical Engine (Al or Mg-Alloy) | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Len | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Lamp | × | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Ballast | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Clip (Free cutting Phosphor Bronze ) | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Fans assy | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Lamp cover protected switch | ○ | ○ | × | ○ | ○ | ○ |
| Temperature switch | ○ | ○ | × | ○ | ○ | ○ |
| PCB Assy | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Cable | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Power Cord | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Power Inlet | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Metal (Free cutting Phosphor Bronze, Copper nail etc.) | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Remote controller | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

O: Indicates that this toxic or hazardous substance contained in all of the homogeneous materials for this part is below the limit requirement in SJ/T11363-2006.

X: Indicates that this toxic or hazardous substance contained in at least one of the homogeneous materials used for this part is above the limit requirement in SJ/T11363- 2006.

(Enterprises may further provide in this box technical explanation for marking "X" based on their actual conditions.)

# 正面図



**レンズ**

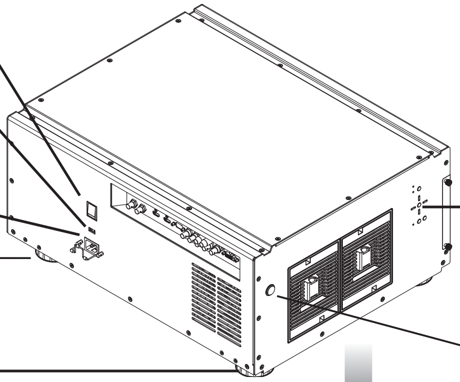
**通気口**
内部の冷却ファンがこの通気口より冷気をプロジェクターに取り入れます。

**赤外線受信部**

**排気口**
プロジェクター内部の熱気が排気口から排出されます。排気口をふさがないようにしてください。

**調整可能脚部**
脚部でプロジェクターの高さおよび角度を調整します。

# 背面図



**電源スイッチ**
I → オン
O → オフ

**電圧セレクター**
デフォルトは110V)

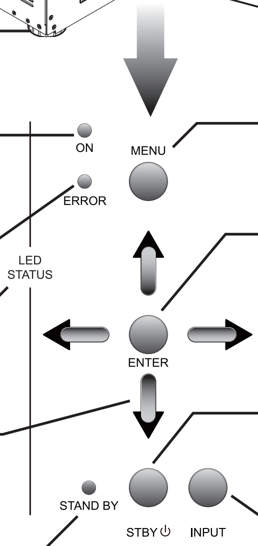
**電源口**

**調整可能脚部**

**調整可能脚部**

**プロジェクターキーバッド**

**赤外線センサー**




**電源**
プロジェクターの電源の状態を表示します。

**ERROR(エラー)**
プロジェクターの誤動作を引き起こしている原因 (温度、ファン、ランプ、またはシステムなど)を表示します。

表示情報の詳細は、「58ページLEDステータス」をご覧ください。

**▲▼▶◀ボタン**
ボタンを使用してOSD(オンスクリーンディスプレイ)上の項目のスクロール、設定、または調整を行う、または様々な画像を切り替えます。

**スタンバイ**
プロジェクターのスタンバイ状態を表します。

**メニュー**
OSD調整画面を表示/非表示にします。

**ENTER(決定)**
このボタンを押してOSDの項目選択を決定します。項目は「項目選択」から選択するか、「サブメニュー」設定からアクセス可能です。

**STBY**
このボタンを使用してプロジェクターの起動/シャットダウンが行えます。

**INPUT(入力)**
入力信号ソースの切り替えに使用します。
詳細は、「32ページ入力信号の選択」をご覧ください。

## 赤外線エクステンダー
入力信号を互換NilesまたはXantech赤外線リピーターシステムより受信します。

## 12V トリガー
(3.5-mm, ミニフォンジャック)
350mAモニターリレー用短絡保護つき12 (+/- 1.5) V出力を提供します。

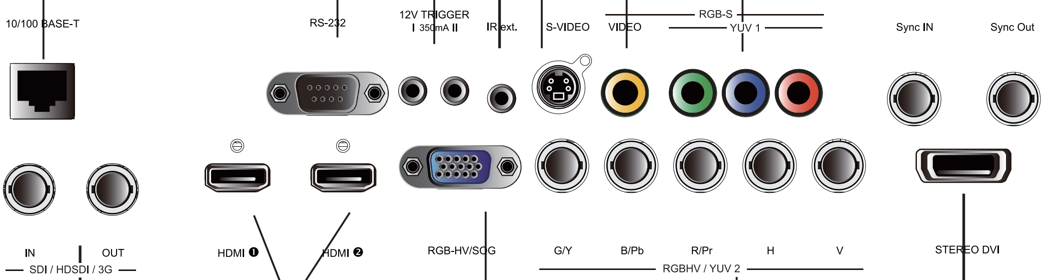
## RS-232
9ピンD-subソケット。PCまたはオートホームシアター/制御システムとの接続に使用します。

## 10/100 BASE-T
プロジェクターとPCをネットワークで接続し、PC上でプロジェクターを直接制御できるようになります。

## Sビデオ
標準Sビデオ入力で、DVDプレイヤー、衛星放送受信機、またはスーパーVHS (S-VHS)ビデオと接続します。

## ビデオ
ビデオ、レーザーディスク、またはその他画像出力機器と接続します。RGBS入力元からコンポジット画像同期入力とも接続します。

## YUV1
標準および高解像度 (480i/480p/576i/576p/720p/1080i/1080p) 入力機器、DVD/HD-DVD/BDプレイヤー、HD セットトップボックス、またはその他SD/HD入力元と接続します。またRGBS入力元からのRGB入力にも接続します。




## SDI/HDSDI/3G イン/アウト
画像の入出力にBNCconnectsを使用するシリアルデジタルインターフェース。

## HDMI 1 & 2
HDCP互換のデジタル画像入力。出力元とHDMI またはDVIを使用して接続します。

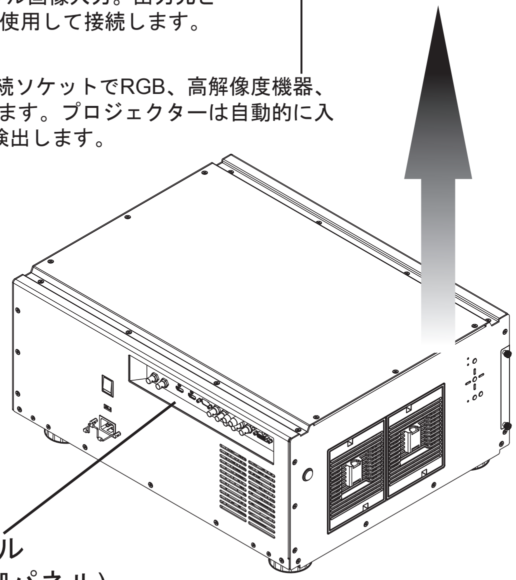
## RGBHV/SOG
標準15ピンVGA接続ソケットでRGB、高解像度機器、またはPCと接続します。プロジェクターは自動的に入力信号の解像度を検出します。

## RGBHV/YUV2
コンポーネント(YPbPr)入力画像およびチャンネル (Hs, Vs)ソースのための5つのBNC入力との接続。

## ステレオDVI
このDVIデュアルリンクを使用して、ステレオ3Dソースと接続します。通常3Dグラフィックカードおよび3Dアプリケーションを持つコンピューターとの接続で使用します。

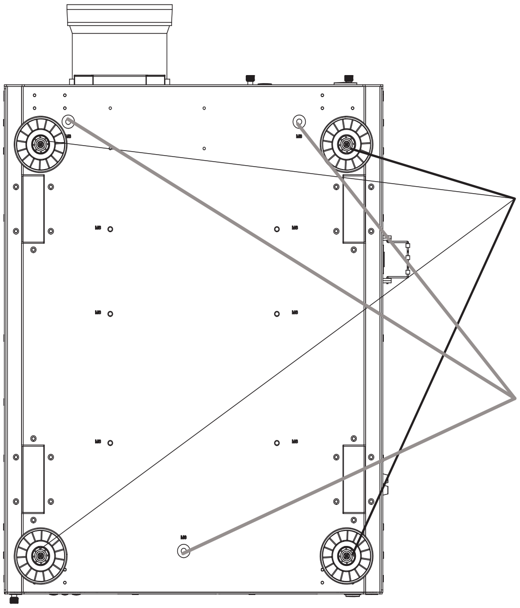
## 3D Sync In
3D Sync In信号は3Dの入力元から生成され、ユーザーおよびプロジェクターに対して左右の目のコンテンツが正しく同期するようにします。

## 3D Sync Out
通常、3Dシャッターを使用したメガネの受信機に対して左右の信号を送信する赤外線送信機との接続に使用します。3Dアプリケーションのために3Dメガネの左右のシャッターを交互に開閉させます。



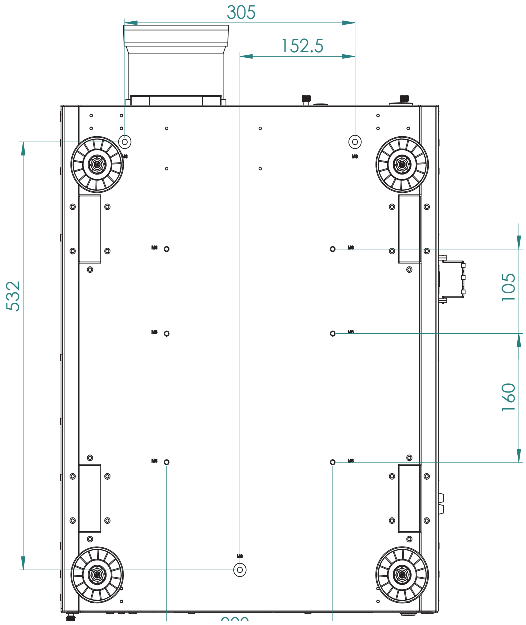
## IOコントロール
(入力/出力制御パネル)

# 底面図



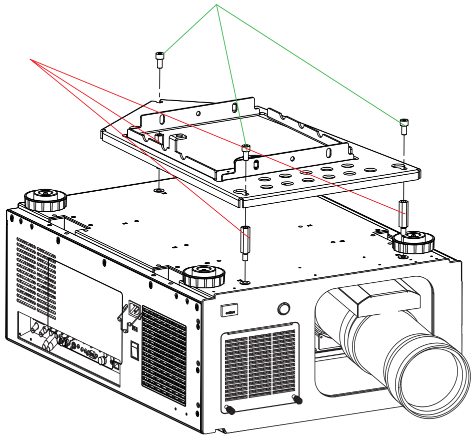
**調整フット**
調整フットでプロジェクターの高さと角度を調整します

**マウンティングブラケットねじ穴**
これらのねじ穴は、3 M8x15ねじと3 M8x40ボルトを使用して指定されたマウンティングブラケットにプロジェクターをマウントするために使用されます。ねじ穴の寸法は以下の図に示しています。




M8x15
3つのねじ

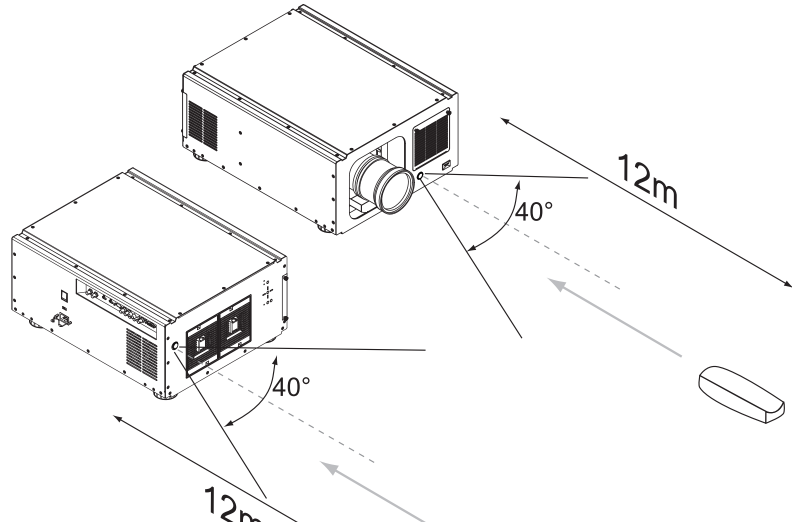
M8x40
3つのボルト



シーリングマウント注文情報:
1. R9849999-シーリングマウント
2. R9841260-短滑車400mm～765mm
3. R9841261-長滑車800mm～1,165mm

# 有効なリモコン信号受信の範囲

以下の図は、有効なリモコンの信号受信範囲を示しています。



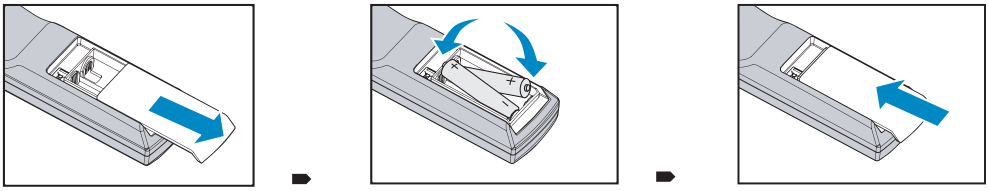

注： リモコンは温度または湿気の高い場所に置かないでください。誤動作を引き起こす原因となります。

# リモコンの電池を取り付ける

矢印で示す方向にスライドさせて、カバーを取り外します。

2本の単三電池を挿入します（プラスとマイナス方向に注意してください）。

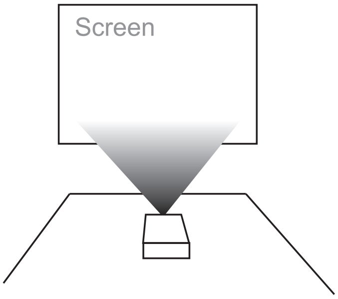
カバーを戻します。



注1: リモコンと電池のプラスとマイナスが合うように電池を挿入してください。
注2: 新しい電池と使用済み電池を混ぜ合わせないでください。新しい電池の寿命が短くなったり、液漏れの原因となります。
注3: 指示された通り、単三電池のみを使用するようにしてください。リモコンに異なる種類の電池を挿入しないでください。
注4: リモコンを長時間使用しない場合、液漏れの原因となるため必ず電池を取り外してください。液漏れによりリモコンが損傷する場合があります。
注5: 電池の液体は皮膚に有害です。素手で液体に触れないでください。新しい電池を取り付けるとき、漏れた液体をよく拭き取ってください。
注6: ほとんどの環境下で、画面の方にリモコンを向けると赤外線信号が画面から反射され、プロジェクターの赤外線センサーにより感知されます。しかし、特定の環境下では、プロジェクターが環境要因によりリモコンからの信号を受信できないことがあります。この場合、リモコンをプロジェクターの方向に合わせ再試行してください。
注7: 有効なリモコン信号受信の範囲が弱くなった場合、またはリモコンが作動しなくなった場合、電池を交換してください。
注8: 赤外線受信器が蛍光灯または強い日光にさらされた場合、リモコンが正常に作動しないことがあります。
注9: 使用済み電池の廃棄については、地方自治体により定められた規制を参照してください。廃棄が不適切だと、環境が損なわれる可能性があります。

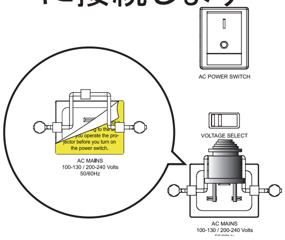
# プロジェクターの簡単インストール。

## 1. プロジェクターを画面に向けます。



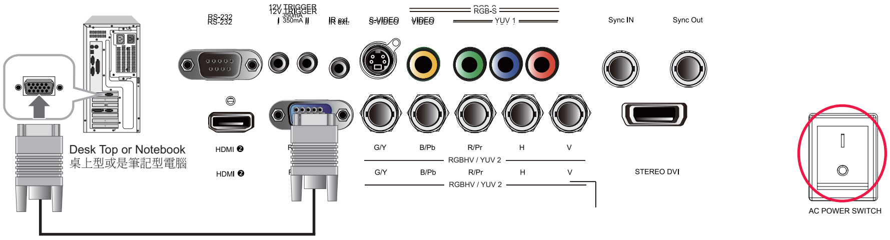

## 2. 電源コードをプロジェクターに接続します

警告ラベルを剥がす前に正しい入力電圧を選択するようにしてください。

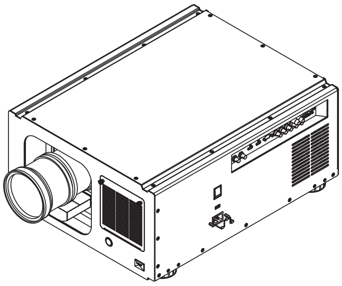



電源スイッチを入れる前に、プロジェクターを使用する地域における適正入力電圧 (110V または220V)を選択するようにしてください。

## 3. プロジェクターとPCを接続し、スイッチを “I” に入れ電源を入れてください。



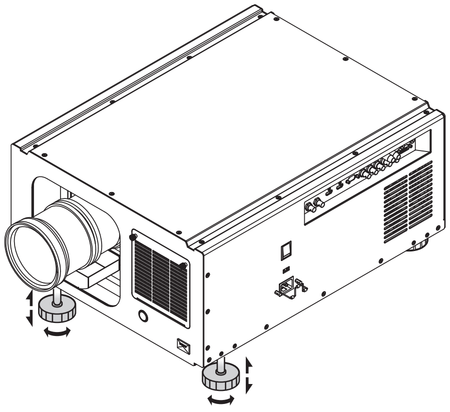

## 4. プロジェクターを起動する前に、ポリウレタンフォームを取り除いてください。



プロジェクターの STBY ⏻ ボタンを押すか、リモコンの ボタンを押してプロジェクターを起動してください。

## 5. プロジェクタの角度を調整する

a. 調整フットを使ってプロジェクターの角度を変更し、画面の投射にもっとも適した角度を得ます。



b. 水平または垂直レンズシフトによりレンズを調整します

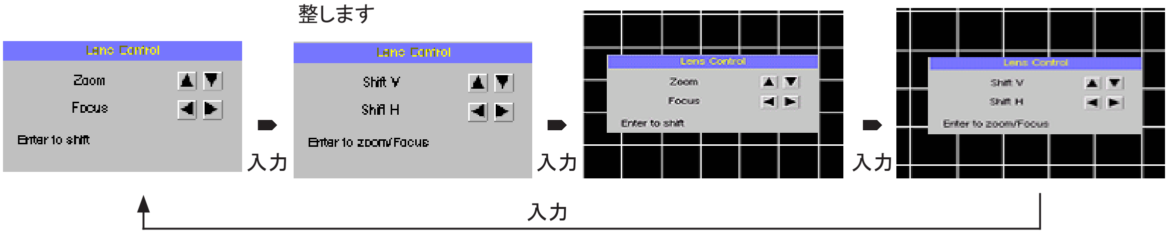
方法1: リモコンの入力ボタンを押してLens Control調整画面にアクセスした後にもう一度入力を押してメニューにアクセスし、▼▲▶◀ ボタンを使ってレンズの水平または垂直位置を調整します。

入力を一度押してズームとフォーカスを調整します

入力をもう一度押して垂直または水平レンズシフトを調整します

入力を一度押して十字線でズームとフォーカスを調整します

入力を一度押して十字線でレンズシフトを調整します




方法2: リモコンのメニューボタンを押して調整→Lens Controlを選択し、▼▲◀ ▶ボタンを使ってレンズの水平または垂直位置を調整します。

## 6.フォーカスとズームを調整します。

a. リモコンのメニューボタンを押して調整→Lens Controlを選択し、▶◀ ボタンを使ってレンズのフォーカス(透明度)を調整します。

b. リモコンのメニューボタンを押して調整→Lens Controlを選択し、▼▲ボタンを使って画面に投射される画像のサイズを調整します。

| 元の画像サイズ | ズームアウト | ズームイン |
| --- | --- | --- |
| | | |

## 7. 投射角度に起因するキーストーンを補正する

a. 水平キーストーンを調整するには、リモコンの「メニュー」ボタンを押し、「調整」→ワープ→水平キーストーンを選択し、◀▶ ボタンを使って画像を調整します。

➨

b. 垂直キーストーンを調整するには、リモコンの「メニュー」ボタンを押し、「調整」→ワープ→垂直キーストーンを選択し、▼▲ ボタンを使って画像を調整します。

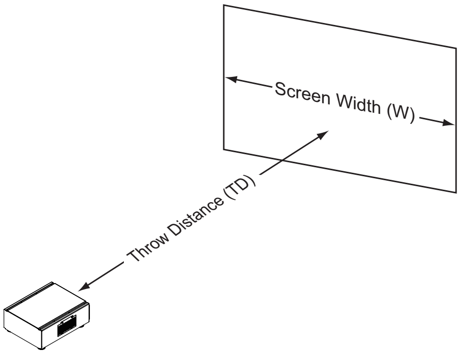
➨

## 8. プロジェクターの電源をオフにする

プロジェクターの STBY⏻ ボタン、またはリモコンの ⏻ ボタンを押してプロジェクターの電源をオフにします。プロジェクターの電源がオフになっても、冷却ファンは約90秒間動作を続けます。

# 投影距離

投影距離(TD) = 画面幅 (W) x 投影比 (TR)




使用可能な投射レンズと組み合わせた場合、プロジェクターの投影比は以下のようになります:

- R9832740-RLDレンズ (0.77 : 1)
- R9832741-RLDレンズ (1.16 : 1)
- R9832742-RLDレンズ (1.45 - 1.74: 1)
- R9832743-RLDレンズ (1.74 - 2.17: 1)
- R9832744-RLDレンズ (2.17 - 2.90: 1)
- R9832745-RLDレンズ (2.90 - 4.34: 1)
- R9832746-RLDレンズ (4.34 - 6.76: 1)

注：
投射レンズはオプションのアクセサリーです。ニーズにもっとも適した投射レンズの入手方法については、最寄りの販売店にお問い合せください。

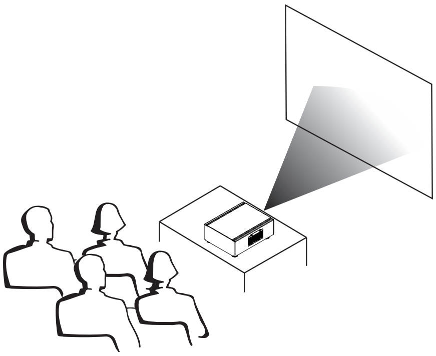
# 設置方法

- 35° C以下の環境にプロジェクターを設置します。プロジェクターは熱源またはエアコンの換気孔から離して設置する必要があります。
- プロジェクターはモーターやトランスなど、電磁エネルギーを放出するデバイスから離して設置する必要があります。電磁エネルギーを放出する一般的デバイスにはスライドショーシステム、スピーカー、電源アンプ、エレベーターなどがあります。
- 天井にプロジェクターを取り付ける場合、メーカー認定のベンダーにより製造された天井取り付けコンポーネントを必ず使用してください。詳細については、最寄りの代理店にお問い合せください。

## 前面投射 - デスクトップ設置

メリット: 設置が簡単で 移動や調整が容易、操作しやすい。

デメリット: 床面積を占め、座席収容力に限りがある。

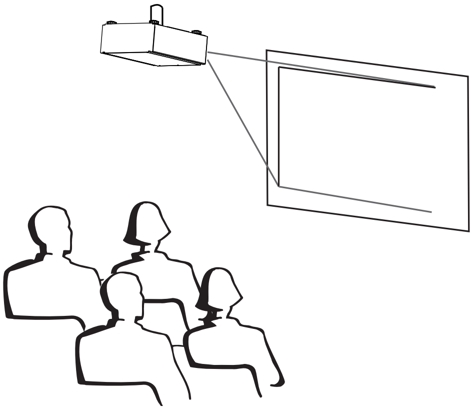


## 前面投射 - シーリングモード

メリット: 床面積を取らず、そのことに注意を引きつけない。誰かが間違ってプロジェクターを動かす可能性を排除。

デメリット: より厳しい取り付け要件と条件。プロジェクターがしっかり取り付けてあることを確認するために、取り付けの間注意を払わなければならない。

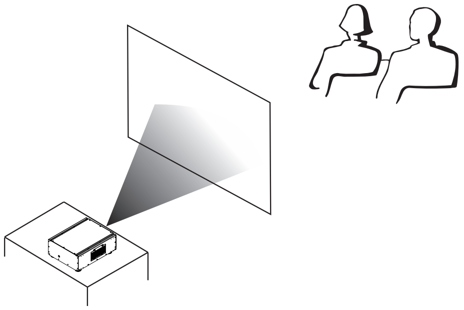
リモコンがないと、プロジェクターの操作が面倒。



## 背面位置 - デスクトップ設置

メリット: プロジェクターは目につく場所から完全に隠されている。プロジェクターを容易に操作できる。このセットアップでは周囲の騒音が大幅に軽減される。

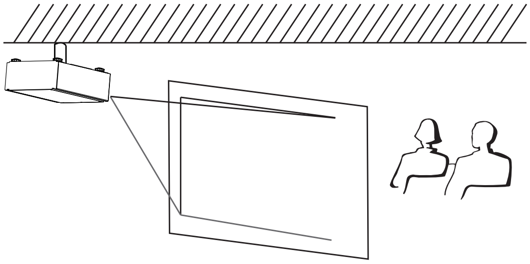
デメリット: 設置に追加のスペースが必要で、設置コストが比較的高くなる。



## 背面位置 - シーリング設置

メリット: プロジェクターが目につく場所から完全に隠されている。このセットアップでは周囲の騒音が大幅に軽減される。

デメリット: 設置に追加のスペースが必要。より厳しい取り付け要件と条件。プロジェクターがしっかり取り付けてあることを確認するために、取り付けの間注意を払わなければならない。

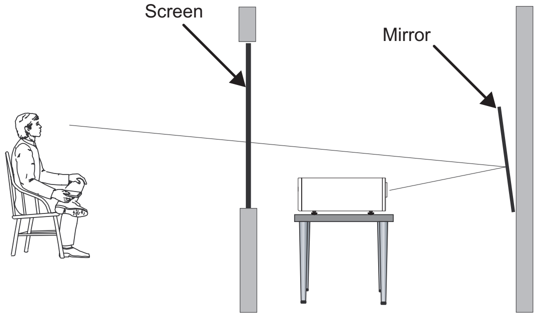


## 背面位置 - 隠蔽設置

プロジェクターの背後のスペースが限られている背面位置セットアップを希望する場合、鏡を使って光路を反射できる。ただし、プロジェクターと鏡を正確に配置しなければならない。そのような設置を考慮している場合、販売店にその方法をお尋ねください。

メリット: プロジェクターが目につく場所から完全に隠されている。このセットアップでは周囲の騒音が大幅に軽減される。

デメリット: 設置に追加のスペースが必要で、設置コストが比較的高くなる。

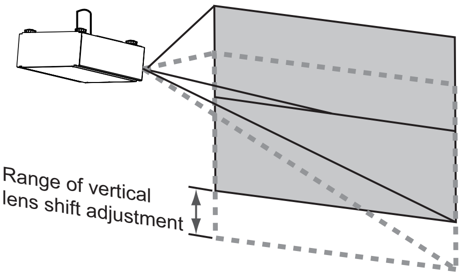


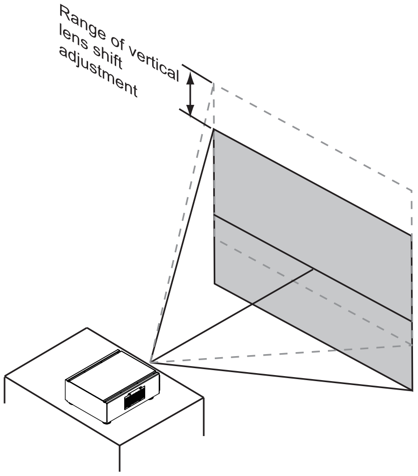
# 水平および垂直レンズシフト

調整可能脚部を使用して投射角度を調整する以外に、レンズシフト機能で投射画像を調整することができます。

## レンズを垂直方向に動かす

垂上下のレンズ移動の距離は+110%、両方向において画面高さの半分の-70%になります。たとえば、80 × 50インチ(203cm x 127cm)の画面を使用している場合、画像を上方向に27.5インチ(70cm)以上、下方向に17.5インチ(44cm)以上動かすことはできません。



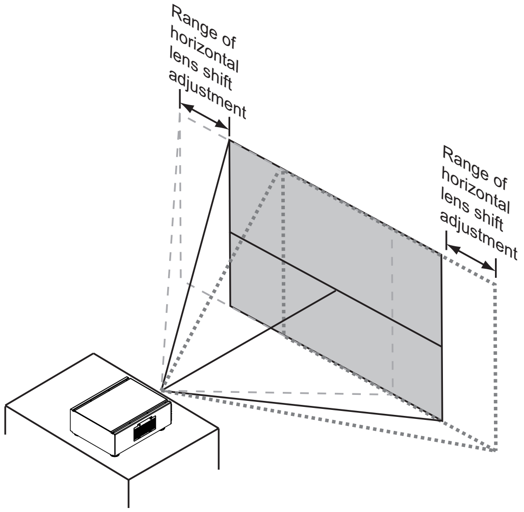




このイラストでは、特殊な仕様のレンズやプロジェクターを使用しない通常の垂直レンズシフトを示しています。

注意:レンズの中央が画面中央に対して直角になるようにしてください。

## レンズを水平方向に動かす

左右のレンズ移動の距離は両方向において画面幅の半分の30%になります。たとえば、80 × 50インチ(203cm x 127cm)の画面を使用している場合、画像を左右に12インチ(30cm)以上は動かすことはできません。



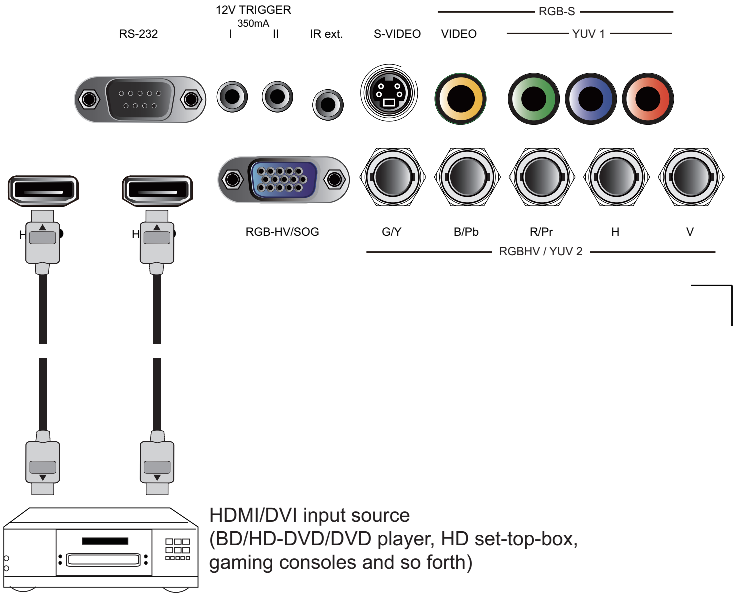

この図解では通常の水平レンズシフトを示しており、特別仕様のレンズまたはプロジェクターを対象とはしておりません。

注： レンズが中間位置 (水平または垂直シフトなしの状態、など)にある場合、投影された映像の中心が画面の中心に一致するようにしてください。

# プロジェクターを他のデバイスに接続する

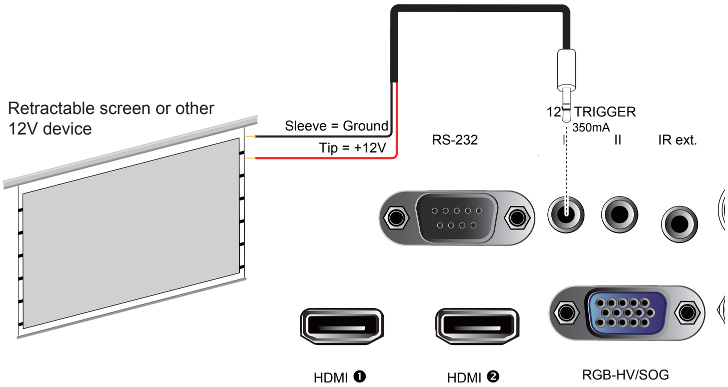
## HDMI / DVI接続

画像ソースからの信号は、HDMIを通して送信されるとき最高の投射画像を提供します。従って、画像のソースとしてHDMI出力のある入力デバイスを使用してください。



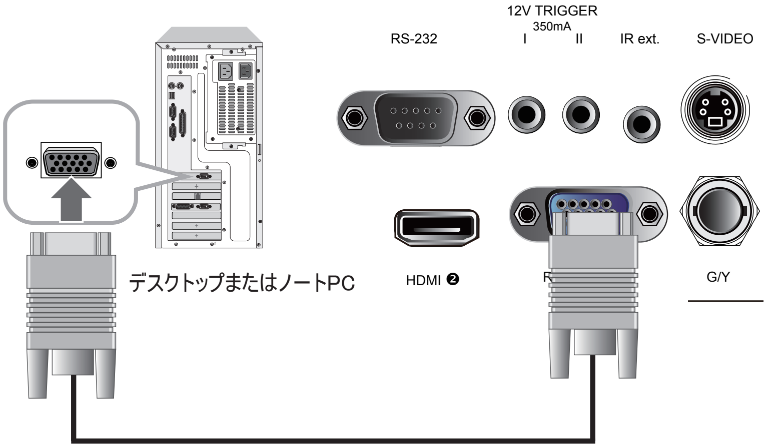

# 12V Trigger接続

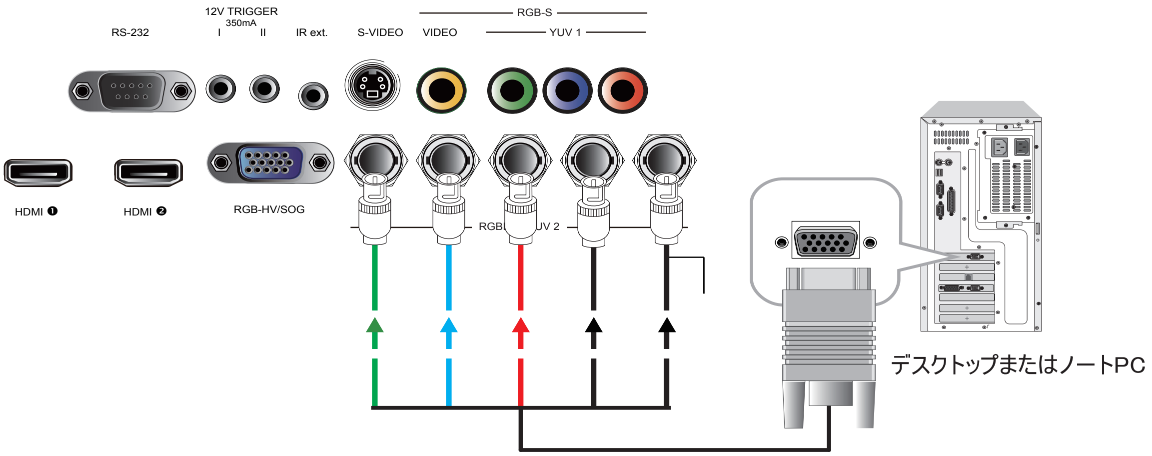
ホームシアターシステムにプロジェクター画面、画面カバーまたは12V Trigger機器が含まれる場合、そのようなデバイス/機器を図のようにプロジェクターの12V Trigger出力に接続してください。接続が済んだ後、
プロジェクターの電源をオンにするだけで画面が自動的に下がり便利です。



# RGB接続

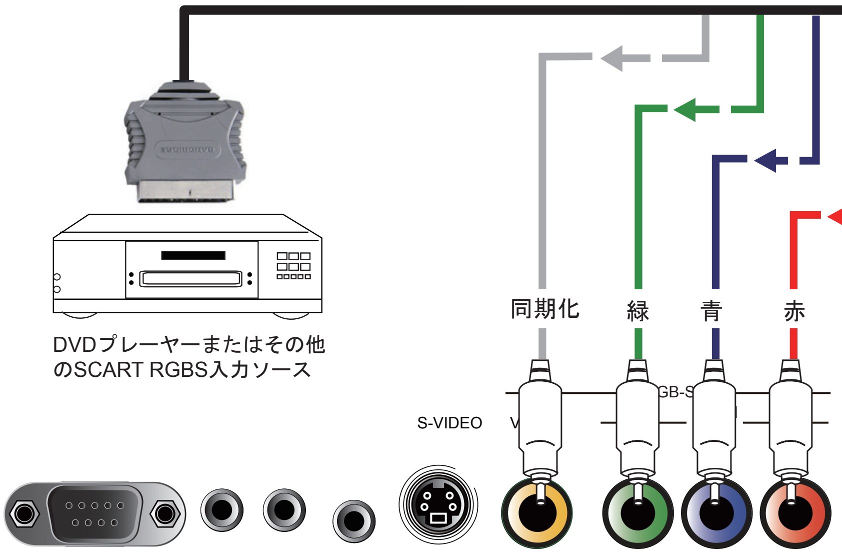
RGB出力のあるPCまたはその他のデバイスを画像のソースとして使用するには、プロジェクターのRGB入力コネクタに接続します。



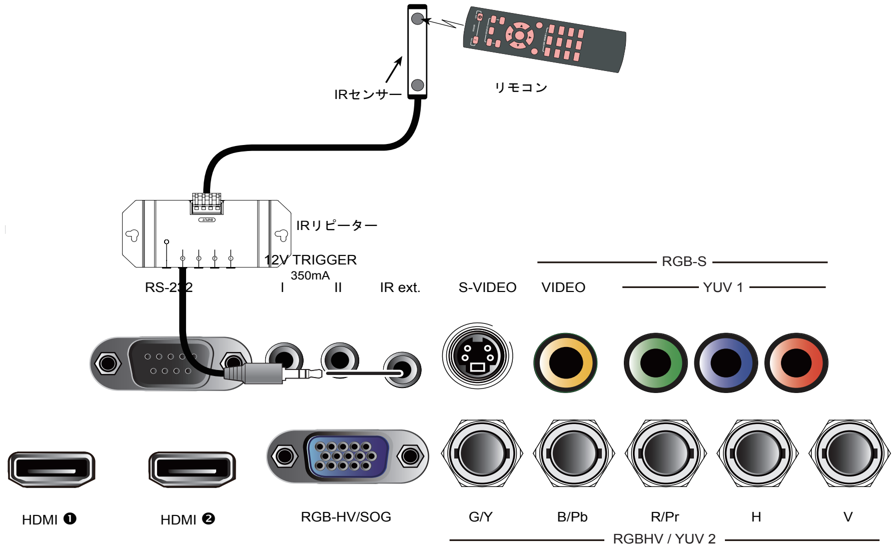
# RGBs接続

ソース機器がコンポジット画像同期コネクタを使ってRGBを出力する場合、緑、青および赤のコネクタをコンポーネント1/SCART入力のY、Pb、Prジャックに、同期出力をビデオジャックに接続してください。



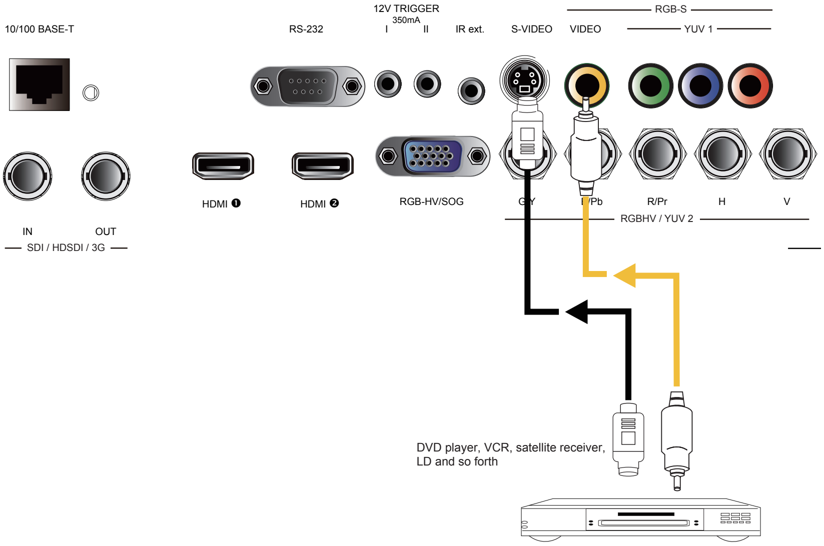

# IR入力接続

プロジェクターが距離または障害物（壁やキャビネットドア、など）のためにリモコンからのIR信号を感知できない場合、外部IRリピーターをプロジェクターのIR入力ジャックに接続して有効信号受信範囲を延ばすことができます。



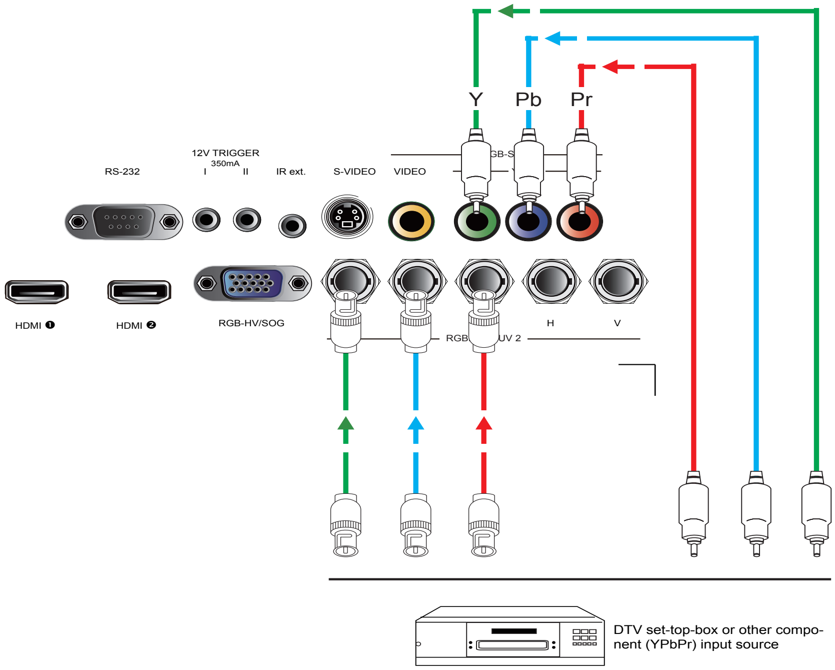
# S-Video/ビデオ接続

画像入力デバイスでSビデオとビデオに接続できる場合、優れた画像品質を得るためにS-Videoを選択することをお勧めします。Sビデオとビデオ入力の両方がプロジェクターに接続される場合、プロジェクターはS-Video入力を優先し、ビデオ入力からの画像は再生されません。

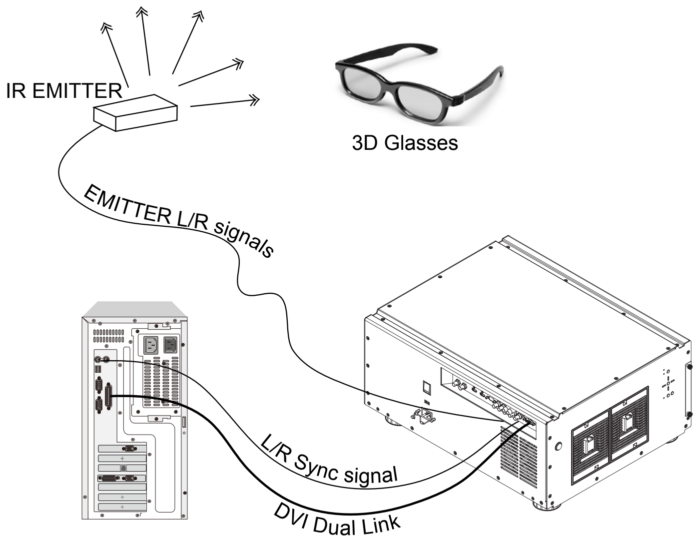



# コンポーネント接続

ソース機器からプロジェクターのコンポーネント1 SCARTまたはコンポーネント2ジャックに3/5をRGBコンポーネントビデオコネクタにケーブルで接続します。



# ステレオDVI接続




ステレオDVIとステレオ3Dソースと接続します。通常3Dグラフィックカードおよび3Dアプリケーションを持つコンピューターとの接続で使用します。

## 3Dモード

3Dモードへの移行法はいくつかあります

- OSD(オンスクリーンディスプレイ)メニュー:メインメニューの[Input(入力)] >[Input Selection(入力選択)]からステレオDVIを選択
- リモコンから:ホットキーの[5]を押して直接ステレオDVIへ移行
- ネットワーク・ウェブページ:[Source/general(ソース/一般)] > [Source(ソース)]へ移動し、ステレオDVIを選択
- RS232コマンド:「Input.sel = 9」でステレオDVIを選択

## 2Dモード

2DモードではOSDメニューが使用できないことにお気をつけください。2Dモードに戻す方法:

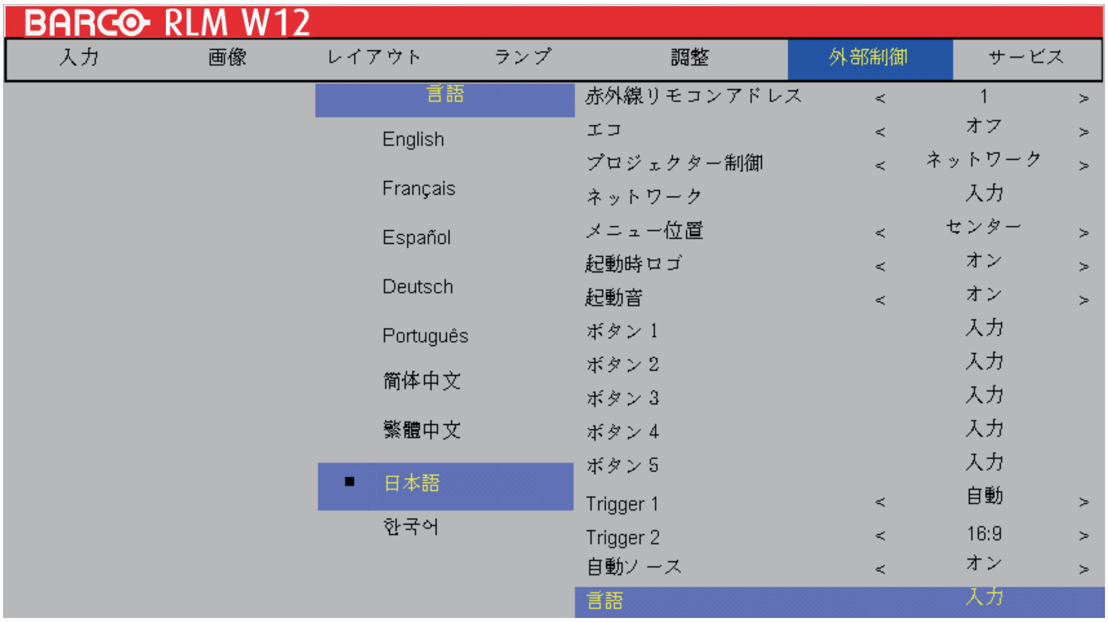
- リモコンから:キーの1から4のどれかを押すと2Dモードに戻ります。
- ネットワーク・ウェブページ:[Source/general(ソース/一般)] > [Source(ソース)]へ移動し、利用可能なその他ソースを選択します。
- RS232コマンド:「Input.sel = 1-8」で利用可能なその他ソースを選択します。

# プロジェクター電源オン

第三章「プロジェクターのクイック取り付け」の説明を参照してください。

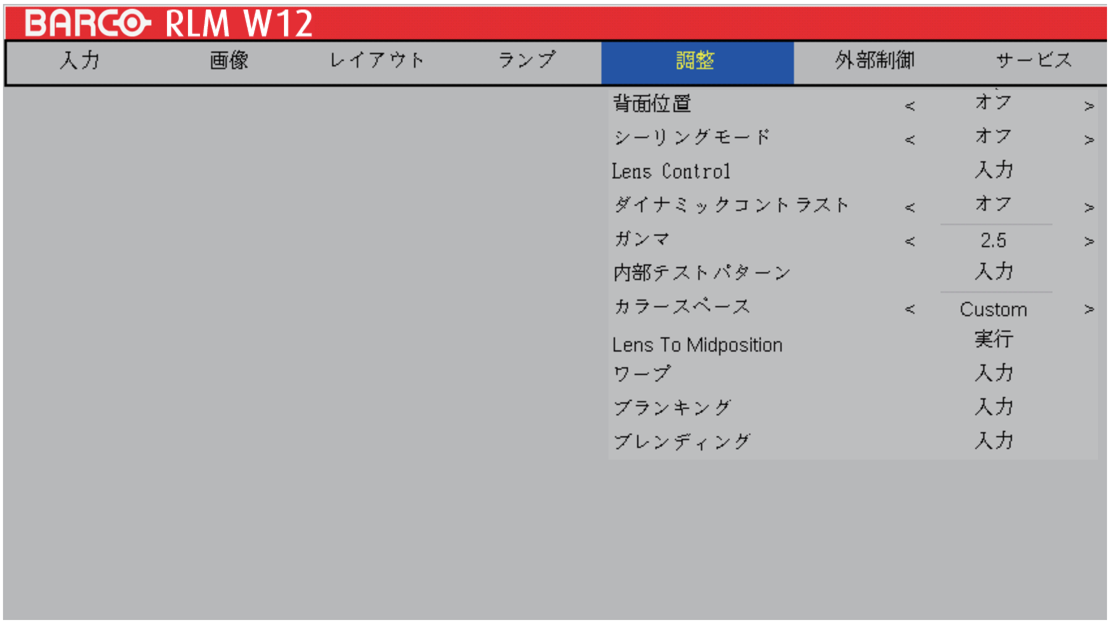
# OSD言語を変更する

工場出荷時設定では、プロジェクターのOSDメニューは英語で表示されています。異なる言語に切り替えたい場合、メニュー → 外部制御 →言語に移動してOSDの言語を選択することができます。



# 画面方向を調整する

デフォルトで、プロジェクターは「前面投射 - デスクトップ設置」に設定されています。他のセットアップでプロジェクターを設置する場合、正しい投射モードを得られるように画面方向を調整してください。

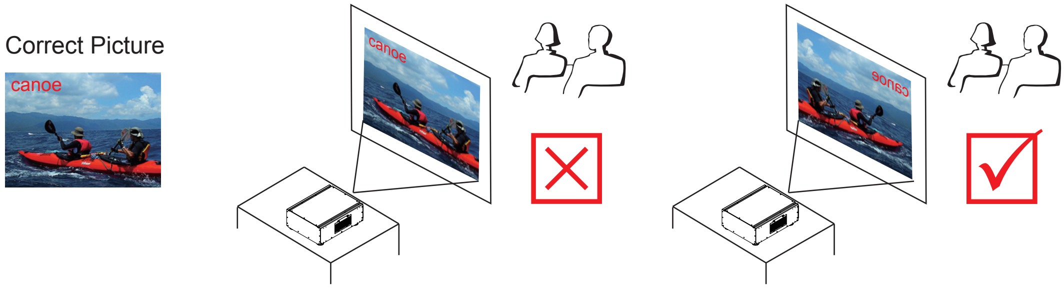



## 前面投射 - シーリングモード

メニュー → 調整 → シーリングモードを順番に押し、オンを選択します。これで、プロジェクターは「前面投射 - シーリングモード」に設定されました。

## 背面位置 - デスクトップ設置

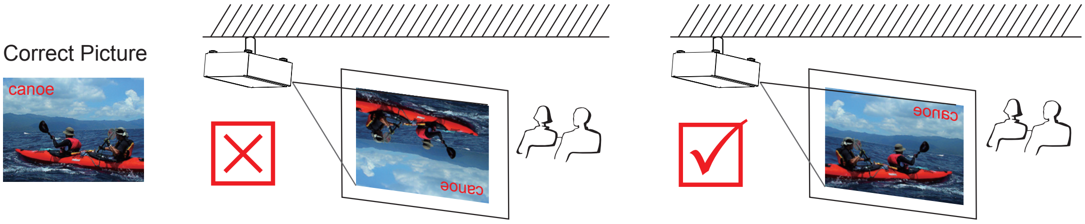
メニュー → 調整 → 背面位置を順番に押し、オンを選択します。これで、プロジェクターは「背面位置 - デスクトップ設置」に設定されました。




## 背面位置 - シーリングモード

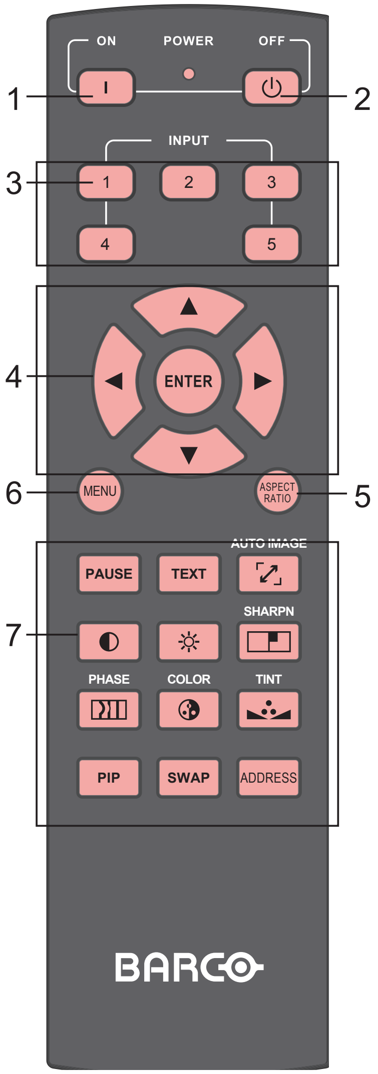
メニュー → 調整 → 背面位置を押し、オンを選択します。

メニュー → 調整 → シーリングモードをもう一度押し、オンを選択します




# プロジェクターレンズを調整する

プロジェクターレンズ調整にはフォーカス、ズーム、水平/垂直画像シフトが含まれます。詳細な指示については、「15ページ：　“5. 「6. フォーカスとズームの調整」、および、「7. 投射角度に起因するキーストーンの補正」を参照してください。




1. I オン
   このボタンはプロジェクターの電源をオンにするために使用されます。

2. ⏻ オフ
   このボタンはプロジェクターの電源をオフにするために使用されます。

3. 1 2 3 4 5
   リモコンのこれらのボタンは、さまざまな画像ソース用のホットキーです。工場出荷時では、これらのボタンは以下のように設定されています:
   1 = HDMI 1
   2 = RGB D-15
   3 = RGBHV/YUV2
   4 = YUV1
   5 = Composite Video

   OSDメニューのそれぞれのボタンに対応する入力ソースを設定できます。これを実行するには、次の手順に従います。

   メニュー > コントロール > ボタン1~5を押し、▼▲ ボタンを使ってさまざまな入力ソースから選択します。から選択できます: HDMI 1、HDMI 2、RGB D-15、YUV 1、RGBHV/YUV 2、Composite Video、S-Video、RGB-Sから選択できます。

   例えば、OSDメニューでRGB D-15として 1 を設定している場合、リモコンで 1 を押すと、プロジェクターにはRGB D-15の画像が表示されます。

4. ▼▲▲▲
   これらのボタンを使って選択または設定を行い、画像表示の設定または切替を調整します。

   入力
   このボタンを使ってメニューのアイテムを選択するか、変更した設定を確認します。
   入力を押した場合、メニューがオフのときにレンズ調整も取り消されます。

5. アスペクト比
   このボタンを繰り返し押すことで、さまざまなアスペクト比をスクロールできます。詳細については、「ページ 2:索引」を参照してください。

6. メニュー
   このボタンを押して、OSDメニューの表示/非表示を切り替えます。

7. さまざまな画像調整ボタン
   PAUSE 一時停止
   このボタンを使って投射を一時的に中断します。

   TEXT TEXT
   テキストがオンに設定されているとき、OSDメニューを普通に操作できます。テキストがオフに設定されているとき、オン、オフ、1~5、ピクチャインピクチャ、一時停止のみが普通に機能します。他のボタンを押してもOSDメニューにアクセスできません。

このボタンは画像の再同期に使用されます。画像信号が不安定になったり画像品質が悪化したりしたら、このボタンを押してください。画面寸法、位相、タイミングなどが自動的に調整されます。（調整はPIP入力にも適用されます）。

コントラスト

画像コントラストを上げたり下げたりするために、画像の白レベルを調整します。

輝度

画像の輝度を上げたり下げたりするために、画像の黒レベルを調整します。

シャープネス

画像のシャープネスと透明度を調整します。

位相

画像がちらついたり、二重になったり、ゆがんだり波打ったりするとき、このボタンを押して調整します。

カラー

画像の色の彩度を調整します。彩度が強すぎると、画像の色は過剰に明るかったり鮮やかになります。他方、彩度が弱すぎると、画像は退色して見えます。

色調

このボタンは、ビデオとS-videoポートを通したビデオ信号入力に対してのみ機能します。このボタンを押すことで、画像のマゼンタと緑の比を調整できます。この設定を低くすると、画像のマゼンタが強くなり、この設定を高くすると画像の緑が強くなります。

PIP ピクチャインピクチャ

このボタンを使って、ピクチャインピクチャを表示したり無効にしたりします。

SWAP SWAP

このボタンを使って、画像PIPディスプレイのソースを切り替えます。

ADDRESS アドレス

*2つのアドレスしか使用できません*

入力ボタンを押したままにし、リモコンパネルが一度点滅するまで押し続けると（約5秒間）、リモコンの受信アドレスが変わります。1つのリモコンを使って2つの異なるプロジェクターを操作する場合、プロジェクターAを操作するときにプロジェクターBが影響を受けないように、2つのプロジェクターに異なるアドレスを割り当てることができます。

# OSDメニューツリー

## OSDメニューツリー

| | | |
|---|---|---|
| 入力 | 入力切替 | HDMI1<br>HDMI2<br>RGB D-15(RGB-HV/SOG)<br>YUV1<br>RGBHV/YUV2<br>コンポジットビデオ(ビデオ)<br>Sビデオ<br>RGB-S<br>SDI/HDSDI/3G |
| | 入力設定 | 自動、 YUV HD、<br>YUV STD、RGB-PC<br>RGB-Video |
| | 入力ロック | 自動<br>48Hz、50Hz、60Hz |
| | 自動電源オフ | オン<br>オフ |
| | 自動電源オン | オン<br>オフ |
| | 信号なし | ロゴ<br>青<br>黒<br>白 |
| | ビデオ標準 | 自動<br>PAL、SECAM、NTSC |
| | 自動画像調整 | オフ、自動<br>常時 |
| 画像 | コントラスト | 0~200 |
| | 輝度 | 0~200 |
| | 彩度 | 0~200 |
| | 色調 | 0~200 |
| | シャープネス | 0~200 |
| | ノイズ除去 | 0~200 |
| | 色温度 | 3200K、5400K、<br>6500K、9300K、Native |
| | 入力バランス | 黒レベル・オフセット<br>赤オフセット<br>緑オフセット<br>青オフセット<br>ホワイトバランス<br>赤ゲイン<br>緑ゲイン<br>青ゲイン |
| | アスペクト比 | 5:4、 4:3、 16:10<br>16:9、 1.88、 2.35<br>Letterbox、 Native<br>Unscaled |
| | タイミング | 水平総ドット<br>水平スタートドット<br>水平位相<br>垂直スタートライン |
| | 自動調整 | 実行 |
| レイアウト | ズーム | オフ<br>クロップ<br>ズーム |
| | メインセレクト | HDMI1<br>HDMI2<br>RGB D-15(RGB-HV/<br>SOG)YUV1(RGB-S)<br>YUV2(RGBHV/YUV2)<br>Composite Video<br>(ビデオ)<br>S-Video<br>RGB-S<br>SDI/HDSDI/3G |
| | PIP選択 | HDMI1<br>HDMI2<br>RGB D-15(RGB-HV/<br>SOG)YUV1<br>YUV2(RGBHV/YUV2)<br>Composite Video(ビデ<br>オ)<br>S-Video<br>RGB-S<br>SDI/HDSDI/3G |
| | PIP位置 | 左上<br>右上<br>左下<br>右下<br>スプリットL-R |
| | ピクチャインピクチャ | オン、 オフ |
| ランプ | モード | エコ<br>ノーマル<br>電源 |
| | ランプ | 1ランプモード<br>2ランプモード |
| | 高高度モード | オン<br>オフ |
| | 電源 | 0~19 (85% - 100%) |
| | ランプ1 ステータス | オン<br>オフ |
| | ランプ2 ステータス | オン<br>オフ |
| | ランプ1 点灯時間 | XX HRS |
| | ランプ2 点灯時間 | XX HRS |

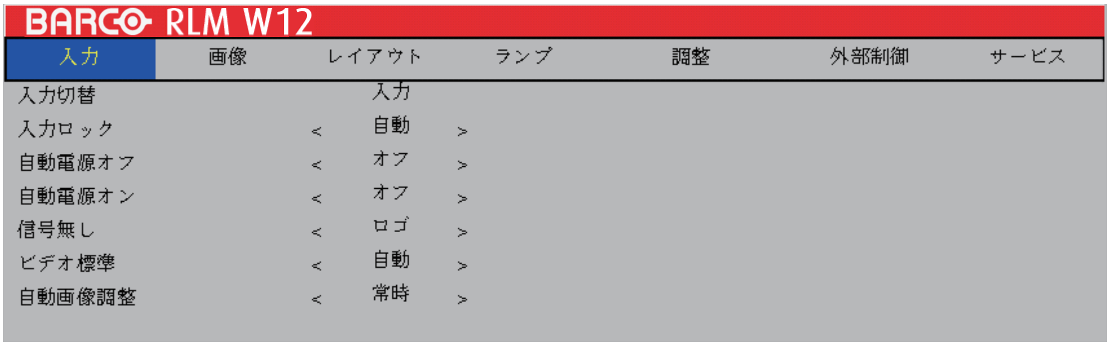
| | | |
|---|---|---|
| 調整 | 背面位置 | オン<br>オフ |
| | シーリングモード | オン<br>オフ |
| | Lens Control | ズーム/フォーカス<br>シフト |
| | ダイナミックコントラスト | オン<br>オフ |
| | ガンマ | 1.8 2.0 2.2<br>2.35 2.5 |
| | 内部テストパターン | オン(1～12パターン)<br>オフ(0オフ) |
| | 内部テストパターン | オン<br>オフ |
| | カラースペース | Native、 EBUS、MPTE<br>カスタム |
| | Lens To Midposition | 実行 |
| | ワープ | 水平キーストーン<br>垂直キーストーン<br>回転<br>ピンクッション/バレル<br>左上隅<br>右上隅<br>左下隅<br>右下隅<br>カスタムワープ<br>リセット |
| | ブランキング | 上部、下部<br>左、右、リセット |
| | ScenergiX | ステータス<br>ホワイトレベル<br>上部<br>下部<br>左<br>右<br>ブラックレベル<br>上部<br>下部<br>左<br>右<br>すべて<br>赤色<br>緑色<br>青色<br>リセット<br>調整ライン |
| コントロール | IRアドレス | 1<br>2 |
| | エコネットワーク電源 | オン<br>オフ |
| | プロジェクター制御 | RS-232<br>ネットワーク |
| | ネットワーク | IPアドレス<br>サブネットマスク<br>ゲートウェイ<br>DHCP<br>(これらは、読み込み専用情報です) |
| | メニュー位置 | 左上<br>右上<br>左下<br>右下<br>中央 |

| | | |
|---|---|---|
| コントロール | 起動ロゴ | オン<br>オフ |
| | 起動音 | オン<br>オフ |
| | ボタン1 | HDMI1<br>HDMI2<br>RGB D-15(RGB-HV/SOG)YUV1(RGB-S)<br>YUV2(RGBHV/YUV2)<br>Composite Video (ビデオ)<br>S-Video<br>RGB-S<br>SDI/HDSDI/3G |
| | ボタン2 | |
| | ボタン3 | |
| | ボタン4 | |
| | ボタン5 | |
| | Trigger 1 | 5:4 、 4:3、 16:10<br>16:9、 1.88、 2.35<br>Letterbox、 Native、<br>自動 、 Unscaled |
| | Trigger 2 | |
| | 自動ソース | オン<br>オフ |
| | 言語 | 英語<br>フランス語<br>スペイン語<br>ドイツ語<br>ポルトガル語<br>簡体字中国語<br>繁体字中国語<br>日本語<br>朝鮮語 |
| サービス | モデル | 読み込み専用情報 |
| | シリアル番号 | |
| | ソフトウェアバージョン | |
| | 入力/PIPソース | |
| | ピクセルクロック | |
| | 信号形式 | |
| | 水平/垂直の更新率 | |
| | ランプ1 点灯時間 | |
| | ランプ2 点灯時間 | |
| | ランプ使用時間リセット | ランプ1 使用時間リセット<br>ランプ2 使用時間リセット |
| | プロジェクター使用時間 | 読み込み専用情報 |
| | 青のみ | オン<br>オフ |
| | ファクトリーリセット | コマンドは、プロンプトダイアログボックスの確認の後で実行されます。 |

# OSD説明

1. リモコンまたはプロジェクター背面の[メニュー]ボタンを押して、OSDメニューを表示します。
2. 7つの機能メニュー (入力、画像、レイアウト、ランプ、調整、外部制御、サービス)が表示されます。◀ または ▶ を押して希望するサブメニューを選択します。
3. ▲または ▼ を押して希望するサブメニューを選択します。
4. それぞれのサブメニューの現在の選択は黄色いテキストで表示され、青でハイライトされます。◀ または ▶を押して選択したアイテムの設定にアクセスするか入力を押して別のサブメニューに進みます。
5. メニューを押して前のメニューに戻ります。
6. メインメニューから、メニューを押してOSDメニューを閉じます。

# 入力




## 入力切替

この機能を使って、プロジェクター背面に接続された画像のソースを指定します。例えば、ビデオ入力ソースとしてPCを接続した場合、画像投射用の入力にRGB D-15(RGB-HV/SOG)を選択できます。
プロジェクターで使用可能な入力のオプションには、以下があります: **HDMI1**、**HDMI2**、**RGB D-15(RGB-HV/SOG)**、**YUV1**、**YUV2(RGBHV/YUV2)**、**Composite Video(ビデオ)**、**S-Video**、**RGB-S, SDI/HDSDI/3G**。

## 入力設定

この機能は、入力ソースRGB D-15、YUV1およびRGBHV / YUV2に対してのみ有効です。 入力設定のオプションには、自動、YUV HD、YUV STD、RGB-PCおよびRGB-Videoが含まれます。 デフォルト設定の自動は、ほとんどのアプリケーションの信号に対して有効です。 入力信号形式が自動設定と一致しない場合は、この機能を使用して、YUV HD、YUV STD、RGB-PCおよびRGB-Videoの間で切り替えます。

## 入力ロック

この機能を使って、画像入力信号の周波数を指定します。最適の投射周波数をプロジェクターの側で自動的に決定したり、指定した周波数で画像を投射したりできます。

- 自動
  この機能のプリセット値は自動です。入力デバイスからの垂直リフレッシュ周波数を48〜62Hzの間で指定すると、入力信号の周波数が自動的にロックされるため、最適の画像出力が得られるように両方の信号入力と出力は同じ周波数でリフレッシュされます。入力信号の周波数が24〜31Hzの間に落ちると、垂直リフレッシュ周波数は自動的に2倍になります。入力信号の周波数が31〜48Hzの間に落ちるか、62Hzを超えると、周波数は自動的に60Hzに設定されます。
- 50Hz
  このオプションを選択して、画像出力周波数を50Hzに設定します。
- 60Hz
  このオプションを選択して、画像出力周波数を60Hzに設定します。

注： ピクチャインピクチャを有効にすると、PIP入力信号の周波数はメインの入力信号で自動的に同期化されます。

## 自動電源オフ

デフォルト値はオフです。オンに設定すると、入力信号が入らない場合プロジェクターは20分後に自動的に停止します。

## 自動電源オン

デフォルト値はオフです。これをオンに設定すると、プロジェクターがAC電源に接続された場合自動的に起動します。プロジェクターの電源コードをスイッチの付いたACソケットに差し込むと、リモコンの代わりにソケットのスイッチを使ってプロジェクターを起動できます。この機能が不要な場合、オフに設定してください。

## 信号無し

この機能を使うと、入力信号が使用できないとき空白の画面に表示する内容や色を指定できます。ロゴ、青、黒、白から選択できます。デフォルト値はロゴです。

## ビデオ標準

国によって、使用するビデオ信号形式が異なります。地域のビデオ標準を選択してください。

- 自動
  これはデフォルト値です。地域で使用されているビデオ標準が自動的に決定されます。
- **PAL** (パル方式)
  ドイツで開発されたビデオ標準（毎秒25フレームで走査線数625本） PAL方式はドイツ、イギリス、南米、オーストラリア、中国および多くの西ヨーロッパとアジア諸国で使用されています。
- **SECAM** (セカム方式)
  フランスが開発した走査線数625本のビデオ標準。SECAM規格を使用する地域には旧東ドイ

ツ、チェコスロバキア、エジプト、ポーランドなどがあります。

- **NTSC** (米国テレビジョン方式委員会)
  米国の米国テレビジョン方式委員会が開発した1フレームあたり走査線数525本のビデオ標準。NTSC規格は主に米国、日本、カナダ、メキシコで使用されています。

注： 通常は、お住まいの地域で使用されているビデオ標準が自動的に検出されます。ただし、使用されているビデオ標準がプロジェクターで読み取れない場合があり、そのようなときユーザーがビデオ標準を手動で設定する必要があります。地域で使用されているビデオ標準が分からない場合、専門技術者に連絡し地域で使用されているビデオ標準をお尋ねください。

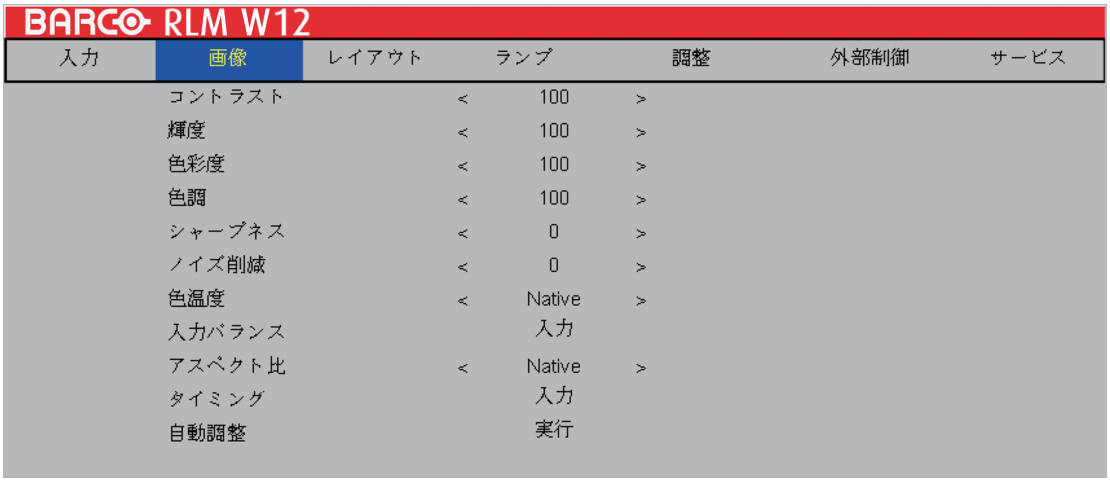
## 自動画像調整

自動画像調整機能を次の3つのモードのどれかに設定できます。

- オフ = 一度もなし
- 自動 = 前に実行されていないとき(または、初めて実行するとき)
- 常時 = 新しいソースが選択されたとき、または新しいソースが接続されたとき。

自動画像調整の詳細については、33ページ: 自動画像調整」を参照してください。

# 画像




## コントラスト

◀▶ を使って、投射された画像のコントラストを調整します。外部画像ソースにプロジェクターを接続して、以下に表示されたものに似た画像を表示して調整を行うことができます。スペクトルの輝度が常に一定を保つように、また黒と白の間で最大のコントラストが得られるように、以下に表示された結果に従って、投射された画像を調整することをお勧めします。

次の画像は、ランダム画像を使用して直接コントラスト調整した結果を示しています。

◀ 低減したコントラスト

元の画像

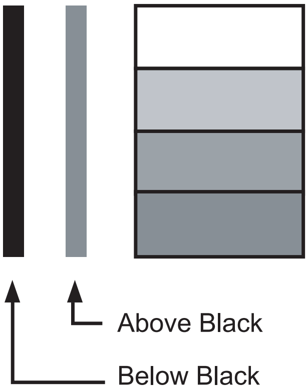
強化されたコントラスト ▶

## 輝度

◀▶ を使って、投射された画像の輝度を調整します。外部画像ソースにプロジェクターを接続して、表示されたものに似た画像を表示して（PLUGE、ピクチャラインアップ生成機器）調整を行うことができます。PLUGE画像には多くのバージョンがありますが、一般には黒の背景の上の黒、白およびグレイのブロックで構成されます。

画像を次のステータスに調整するようにお勧めします。

- 画像のもっとも暗い黒いバーは、背景で見えなくなります。
- 暗いグレイの領域はどうにか見える程度です。
- 明るいグレイの領域ははっきり見えます。
- 白い領域は、リアルに柔らかく見えます。。
- 画像は黒、グレイおよび白でのみ表示されます(他の色はありません)。




コントラスト、輝度、彩度、色調は互いに影響する相互オプションです。これらのオプションのどれかを調整すると、最高の投射結果を得るために他の設定を微調整する必要があります。

次の画像は、ランダム画像を使用して直接輝度調整した結果を示しています。

◀ 低減した輝度

元の画像

強化された輝度 ▶

## 色彩度

◀▶を使って投射された画像の彩度を調整します。投射された画像の色が過度に明るかったり鮮やかであったりする場合、彩度を落としてください。色が白かったり退色しているように見える場合、彩度を上げてください。

◀ 低減した彩度

元の画像

強化された彩度 ▶

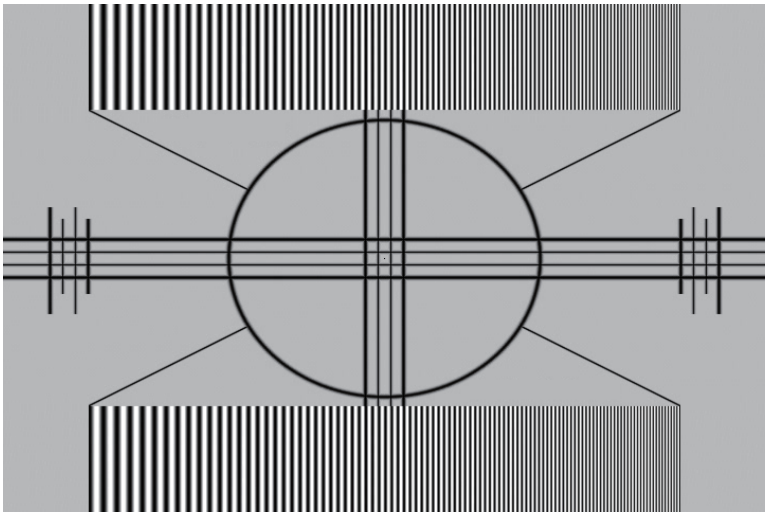
## 色調

◀▶を使って投射された画像の色調(マゼンタと緑の間のバランス)を調整します。値を下げると画像は赤っぽくなり、値を上げると画像の緑が強くなります。

◀ 低減した色調　　元の画像　　強化された色調 ▶

## シャープネス

シャープネスの調整では、主に高い周波数の細部の値が変更されます。外部画像ソースにプロジェクターを接続して、以下に表示されたものに似た画像を表示して画像のシャープネスを調整することができます。



次の画像は、ランダム画像を使用した直接シャープネス調整の結果を示しています。

◀ 低減したシャープネス　　元の画像　　強化されたシャープネス ▶

# OSDメニューの説明

## ノイズ削減

◀▶ を使って、投射された画像のノイズを調整します。この機能は、インターリービングSD入力からの画像ノイズの除去に最適です。通常、画像ノイズを下げると高周波数の細部の値が低くなり、画像は柔らかく見えます。

ノイズ除去

## 色温度

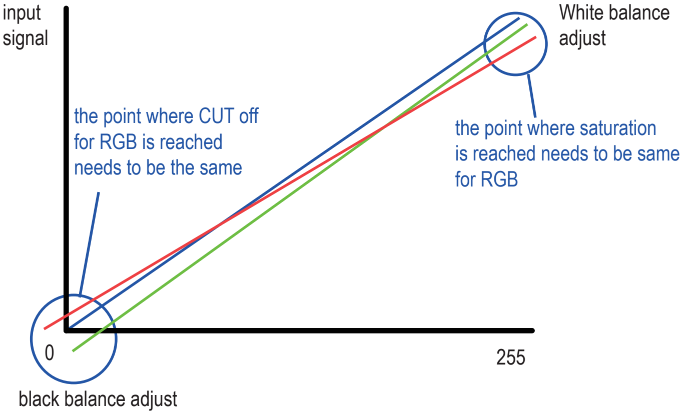
3200K、5400K、6500K、9300K、Nativeから選択できます。

色温度は、裸眼で知覚されるさまざまなエネルギー下の明るい色の変化を指します。可視光で低から高へ色温度が変化すると、色はオレンジレッド→ 白 → 青 へと変わります。

プロジェクターのデフォルトの色温度は6500Kに設定されており、ほとんどの状況に適しています。色温度が上昇すると、画像は青みがかって見え、下降すると、画像は赤みがかって見えます。「Native」を選択すると、入力デバイスの白の調整機能が無効になります。

## 入力バランス

周辺光の変化にかかわらず、人の目には白い物体は白く見え黒い物体は黒く見えるように、自動調整メカニズムが組み込まれています。ただし、機械にはこのような驚くべき持って生まれた機能がないため、周辺光が変わったとき、画像が実際の色に近づくようにプロジェクターの設定を調整する必要があります。




オフセット

この機能は、投射された画像の暗い領域の色のアンバランスをコントロールします。暗い色とグレイの色の多くの領域で外部テスト画像を使うことをお勧めします（すなわち、30IREウィンドウの画像）。グレイ領域で最低限の赤、緑または青しか認められない場合、それに従って対応する色のオフセットを調整してください。この機能は画像全体の色のスペクトルをそのまま移動し、その輝度を変えます。

## ゲイン

この機能は、投射された画像の明るい領域の色のアンバランスをコントロールします。白い色の多くの領域で外部テスト画像を使うことをお勧めします（すなわち、80IREウィンドウの画像）。グレイ領域で最低限の赤、緑または青しか認められない場合、それに従って対応する色のゲインを下げてください。この機能は、画像全体の色入力の範囲の増減に使用されます。
通常、ゲインが増加すると、画像のコントラストは低くなります。オフセットを増すことによって、画像の輝度は低くなります。

- 黒レベル・オフセット
  この機能には、次の赤、緑および青オフセットの調整が含まれます。

テキストそのものは装飾です。

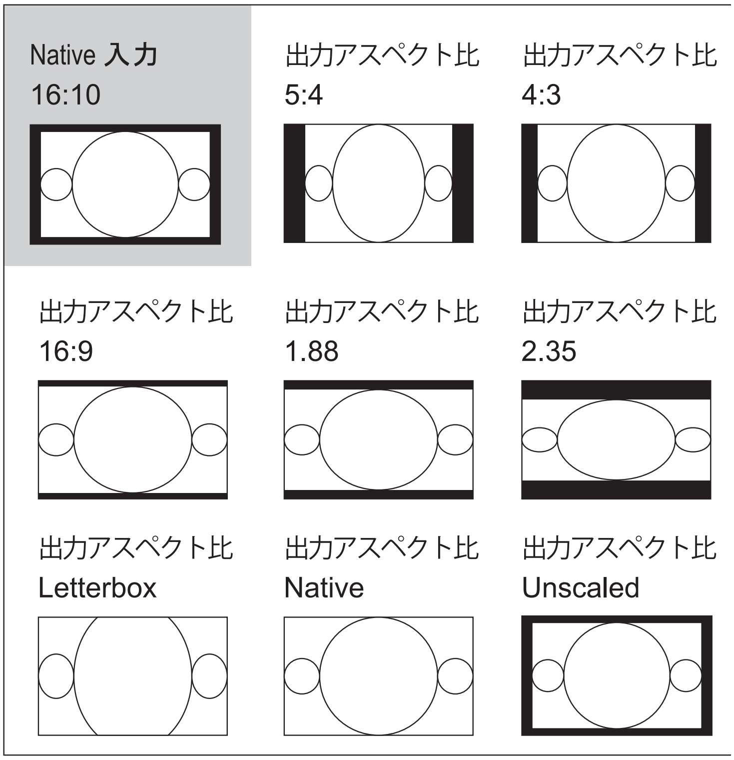
- 赤のオフセット
  ◀▶を押して、暗いスケールの赤のオフセットを調整します。
- 緑のオフセット
  ◀▶を押して、暗いスケールの緑のオフセットを調整します。
- 青のオフセット
  ◀▶を押して、暗いスケールの青のオフセットを調整します。
- ホワイトバランス
  この機能には、次の赤、緑および青ゲインの調整が含まれます。テキストそのものは装飾です。
- 赤のゲイン
  ◀▶を押して、明るいスケールの赤のゲインを調整します。
- 緑のゲイン
  ◀▶を押して、明るいスケールの緑のゲインを調整します。
- 青のゲイン
  ◀▶を押して、明るいスケールの青のゲインを調整します。

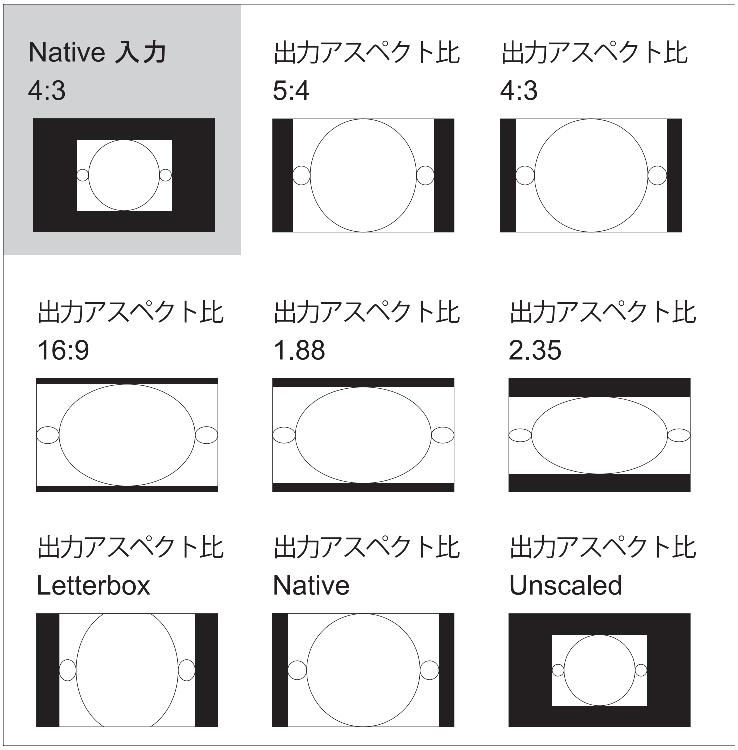
## アスペクト比

この機能を使って、投射された画像のアスペクト比を調整します。◀▶を使って、画像の長さと幅の比を調整します。

プロジェクターの画像全体のサイズは16:10 (1920×1200ドット)です。次の図は、さまざまなアスペクト比設定の違いを示しています。

# OSDメニューの説明



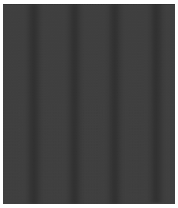




画像の切り取られた部分

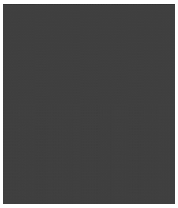
注：例えば映画館、ホテル、カフェやその他の公の場所を含め、商業目的で使用するとき、アスペクト比の変更によって画像を圧縮したり拡張すると、画像の正当な持ち主の著作権を侵害する可能性があります。これは、ご自身の判断で行ってください。

## タイミング

- 水平総ドット
  を押して ◀▶、水平合計を調整します。
  この機能を使って、ピクセルサンプリングのクロック周波数を調整します(ADCで生成されたアナログ入力ソースの水平ピクセル周波数)。画像にちらつきや縦のラインが表示される場合、ピクセルサンプリング周波数が不十分であることを意味します。この機能を使って周波数を調整し、一貫した画像品質を得ることができます。
  次の画像は、外部信号ソースからのテスト画像の一例です。



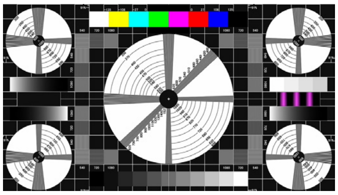
水平合計の値を変更することで画像品質を調整し、画像を滑らかにします。



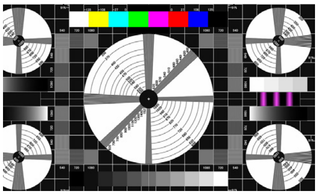
*タイミングを調整するには、使用されるパターンはピクセルにする必要があります (オン/オフ)*

- 水平スタートドット
  を使って、◀▶投射された画像の水平位置を調整します。
  投射された画像が画面の中央に来ず(すなわち、右または左にシフトする)端が切り取られる場合、この機能を使って画像の水平位置を調整します。次の画像は、外部信号ソースからのテスト画像の一例です。

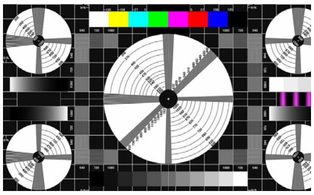
Native picture



Skewed left

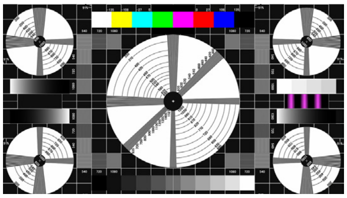


Skewed right

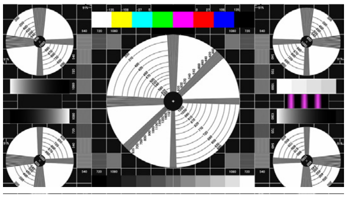


- 水平位相
  ◀▶を使って、投射された画像の位相を調整します。
  この機能を使って、ピクセルサンプリングクロックの位相(入力信号に相対的)を調整します。
  最適化しても画像がちらついたりノイズが表示されたりする場合（すなわち、テキストの端）、それに従って位相を調整してください。
- 垂直スタートライン
  ◀▶を使って、投射された画像の垂直位置を調整します。
  投射された画像が画面の中央に来ず(すなわち、上または下にシフトする)端が切り取られる場合、この機能を使って画像の垂直位置を調整します。次の画像は、外部信号ソースからのテスト画像の一例です。

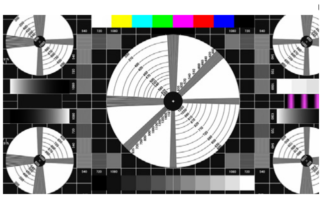
Nativeピクチャ



下に歪み



上に歪み



画像を調整する際は、水平位相の前に水平合計を調整するようにお勧めします。ただし、両方を調整したのに画像がちらつく場合、画像ノイズを低くしてみてください。

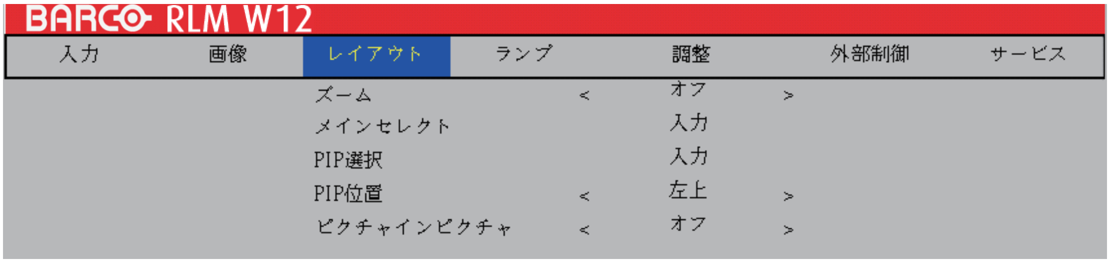
## 自動調整

OSDメニューで自動調整を選択したとき、入力を押して自動画像調整機能を実行してください。

この機能を実行することで、画像は再同期されます。画像ソースが不安定なときまたは画像品質が悪化したとき、画像サイズ、位相およびタイミングが自動的に調整されます。（調整は、PIP入力ソースにも適用されます）。

この機能は、リモコンの ボタンと同じです。リモコンのホットキーを使用すればこの機能を実行できます。

# レイアウト

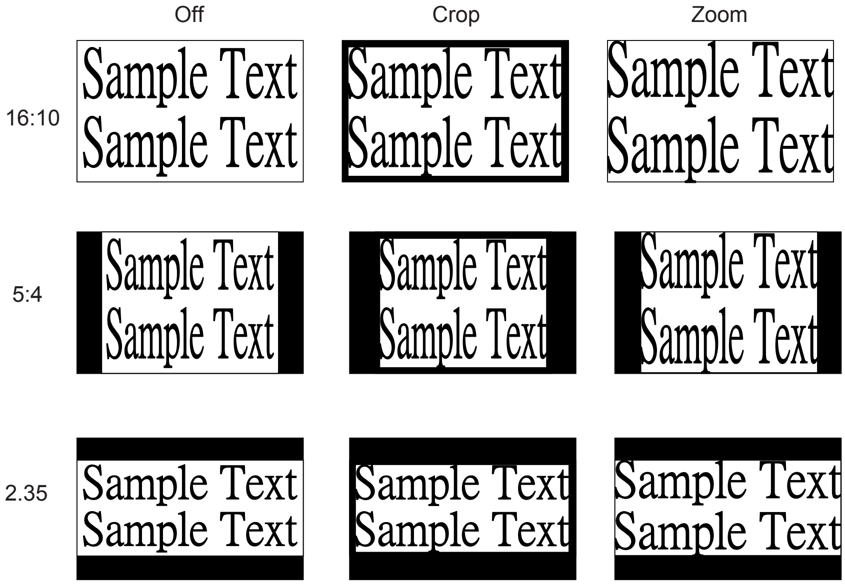



## ズーム

古いテレビシステムを使っているユーザーも一部にいるため、画像の端が表示されないテレビ番組もあります。この機能を使えば、次の3つのオプションのどれかを選択することで画像の端を非表示にすることができます。

- オフ
  これをオフに設定すると、投射された画像は変更されません。
- クロップ
  これを「クロップ」に設定すると、画像のどちらかの側に3%の水平解像度に等しい2つの「マスク」が、また投射された画像の上下に同様の2つのマスクが追加されます。
- ズーム
  この機能を使って、デフォルトのアスペクト比の106%以上に画像の水平解像度を拡大できます。元の画像を超える部分はすべて切り取られます。

アスペクト比を「Native」に設定するとき、ズームを「オフ」または「クロップ」に設定するのを忘れないでください。




## メインセレクト

PIP画像を投射するとき、この機能を使ってPIP画像用に画像ソースを指定します。この機能は入力切替と同じです。この機能は入力切替と同じです。詳細については、「2ページ:索引」を参照してください。

## PIP選択

この機能を使って、サブウィンドウのソースを選択します。

HDMI1、HDMI2、RGB D-15 (RGB-HV/SOG)、YUV1、RGBHV/YUV2、Composite Video(ビデオ)、S-Video、RGB-S、SDI/HDSDI/3Gなどから選択できます。

サブピクチャ　メインピクチャ

## PIP位置

お好みに従って、メインピクチャの5つの異なる場所に、サブウィンドウを表示するよう選択できます。

左上

ャイに

右上

スプリットL-R

左下

右下

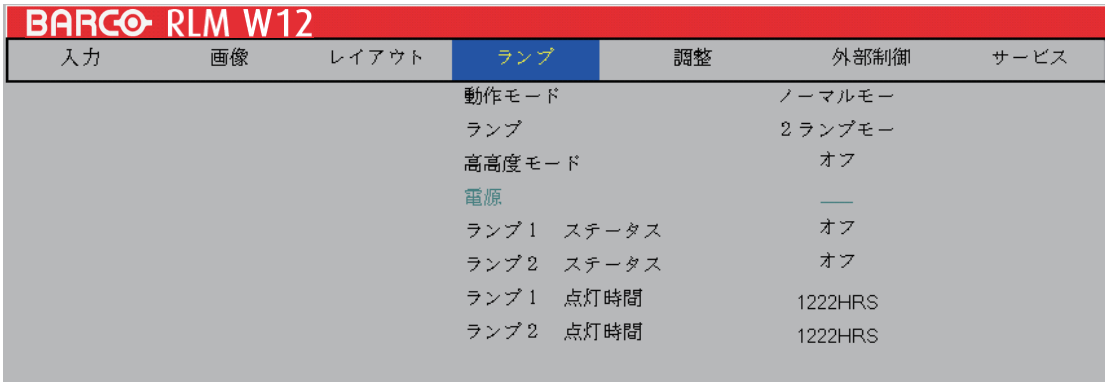
## ピクチャインピクチャ

PIP画像を表示する場合、ここで設定を行うことができます。「オン」を選択することで、投射された画像に2つのウィンドウが表示されます。大きい方のウィンドウはメイン画像で、小さい方はサブ画像です。「オフ」を選択することで、PIP機能は無効になり、画像ウィンドウは1つしか表示されません。

*PIPがオンになっているとき、有効なメインとPIPソースの選択については、次のメインおよびPIPソースマトリクスを参照してください。*

| | | メインセレクト | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | HDMI1 | HDMI2 | RGB D-15 | YUV1 | RGBHV/ YUV2 | コンポジットビデオ | S-Video | RGB-S | SDI / HDSDI/3G |
| ピクチャインピクチャ選択 | HDMI 1 | | – | O | O | O | O | O | O | – |
| | HDMI 2 | – | | O | O | O | O | O | O | – |
| | RGB D-15 | O | O | | – | – | O | O | O | O |
| | YUV 1 | O | O | – | | – | O | O | – | O |
| | RGBHV/ YUV 2 | O | O | – | – | | O | O | – | O |
| | コンポジットビデオ | O | O | O | O | O | | – | – | O |
| | S-Video | O | O | O | O | O | – | | – | O |
| | RGB-S | O | O | O | – | – | – | – | | O |
| | SDI/HDSDI/3G | – | – | O | O | O | O | O | O | |
| Oはソースが使用できることを意味します。– は該当なしを意味します | | | | | | | | | | |

# ランプ




本章では、プロジェクターのランプに関する情報を扱います。

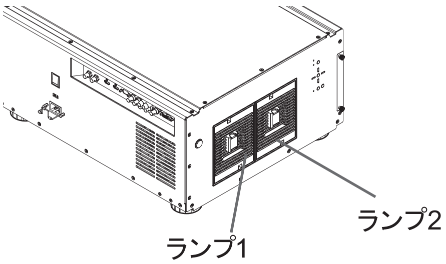
## 動作モード

- エコ
  エコモードに設定しているとき、ランプのワット数は280Wになります。周囲の環境が十分に暗い場合、または強い光を必要としない場合、ランプをエコモードに設定すると寿命が延びます。
- ノーマル
  ノーマルモードに設定しているとき、ランプのワット数は330Wになります。投射環境に明るい画像が必要な場合、ランプをノーマルに設定すると、もっとも明るい投射画像が得られます。
- 電源
  エコモードでは画像の輝度が暗すぎノーマルモードでは明るすぎる場合、これを電源に設定してランプの電源を自分自身で指定し、投射された画像の輝度を微調整できます。エコモードでは画像の輝度が暗すぎノーマルモードでは明るすぎる場合、これを電源に設定してランプの電源を自分自身で指定し、投射された画像の輝度を微調整できます。この機能にアクセスするには、OSDメニュー → ランプ → 電源を順にクリックし、それに従って調整します。

## ランプ

アプリケーションの状況によっては、OSDメニュー経由で1ランプまたは2ランプを選択できます。プロジェクターが1ランプから2ランプに切り替わったとき、砂時計OSDが現れ7秒間それ以上のOSD操作をブロックします。プロジェクターが2ランプモードから1ランプに切り替わったとき、ランプ選択OSDがブロックされ90秒間ランプの冷却を行います。ランプ電力は85%～100%の範囲で調整できます。

- 1ランプモード
  投射環境が十分に暗く1ランプで希望する投射輝度を得られるとき、1つのランプを使用するように選択できます。ランプ1とランプ2の使用時間はプロジェクターによって自動的に決められ、操作には時間が短い方のランプが選択されます。
- 2ランプモード
  プロジェクターから明るい画像が必要なとき、2ランプモードでプロジェクターを操作してください。



## 高高度モード

この機能を使って、プロジェクターの冷却ファンをコントロールします。このモードは、オフまたはオンに設定できます。デフォルト設定はオフです。

ノーマルな環境下では、プロジェクターはこの機能をオフに設定しているときにノーマルに作動します。デフォルトで、プロジェクターは周囲の環境の温度を検出し冷却ファンの速度を調整します。周囲の温度が上がると、ファン速度が上昇して（大きなノイズを生成し）プロジェクター内部の熱が放出されプロジェクターをノーマルに作動します。

ただし、過度に暑い環境または高高度エリアでプロジェクターを操作すると、プロジェクターは自動的に停止します。この場合、これをオンに設定して機能を有効にし冷却ファンを高速で強制作動してプロジェクター内部の温度を調整することができます。

- 高高度地域とは、海抜1500m (4900フィート)以上のエリアを指します。
- ノーマルな高度環境で操作しているとき、プロジェクターは作業環境の温度に従って冷却ファンを調整します。温度が30℃より高くなると、ファン速度は自動的に上がります。
- 製品仕様では、プロジェクターの最大の操作高度は25℃の場合3000mです。これは、作業環境が25℃以上の場合、プロジェクターを高高度で操作してはいけないことを意味します。（高高度では空気がかなり薄くなるため、冷却ファンによって得られる冷却の結果は平地での操作に比べかなり落ちます。気圧が低かったり運転温度が高かったりすると、冷却ファンは熱を適切に放出できません）。

## 電源

ランプをエコまたはノーマルモード（OSDメニュー → ランプ → モード）に設定している場合、この機能は使用できません。ランプを「電源」に設定しているときのみ、この設定を調整できます。ランプ電源は85%〜100%の範囲で指定できます。通常、電源が低ければ、画像は薄暗くなりますがランプの寿命は延びます。それとは対照的に、電源が高ければ、画像は明るくなりますがランプの寿命は短くなります。

### ランプ1 ステータス

この機能は、ユーザーにランプ1のステータス（オンまたはオフ）を通知する表示目的に限定されます。

### ランプ2 ステータス

この機能は、ユーザーにランプ2のステータス（オンまたはオフ）を通知する表示目的に限定されます。

### ランプ1 点灯時間

この機能は、ユーザーにランプ1の合計点灯時間を通知する表示目的に限定されます。

### ランプ2 点灯時間

この機能は、ユーザーにランプ2の合計点灯時間を通知する表示目的に限定されます。

# 調整

## 背面位置

デフォルト設定はオフです。

背面位置にプロジェクターをセットアップしたとき、オンに設定してください。位置のさまざまなモードの詳細については、「17ページ: 設置方法」を参照してください。

## シーリングモード

デフォルト設定はオフです。

- シーリングモードにプロジェクターをセットアップしたとき（天井から逆さまに吊り下げ）、オンに設定してください。位置のさまざまなモードの詳細については、「17ページ: 設置方法」を参照してください。

## Lens Control

- ズーム
  この機能は、前項で説明した機能と同じです。詳細については、「15ページ: 6. フォーカスとズームの調整」を参照してください。
- フォーカス
  この機能は、前項で説明した機能と同じです。詳細については、「15ページ: 6. フォーカスとズームの調整」を参照してください。
- シフト
  この機能は、前項で説明した機能と同じです。詳細については、「15ページ: 5. プロジェクタの角度の調整」を参照してください。

## キーストーン

この機能を使って、投射角度に起因するキーストーンを補正します。

- 水平キーストーン
  この機能は、前項で説明した機能と同じです。詳細については、16ページ: 7. 投射角度に起因するキーストーンの補正」を参照してください。
- 垂直キーストーン
  この機能は、前項で説明した機能と同じです。詳細については、16ページ: 7. 投射角度に起因するキーストーンの補正」を参照してください。

注: * 水平キーストーンと垂直キーストーンの絶対値の合計は、350以下に制限されています。*

## ダイナミックコントラスト

この機能を使って、起動時または停止時のソースからの画像コントラストを自動的に調整するようにプロジェクターを設定します。有効になっているとき、プロジェクターは投射の初めからコンテンツが終了するまで、画像コントラストをダイナミックに調整します。

## ガンマ

ガンマ設定が異なると、画像の見え方に影響します。通常、暗い画像の場合、明るいエリアの細部を犠牲にしても、暗い領域の画像品質を高めるために、ガンマを高く設定するようにお勧めします。それに対して、明るい画像を投射する場合は、明るいエリアがより良く見えるように（雲、など）暗いエリアの細部を放棄してガンマを低く設定できます。

プロジェクターでは、5つの異なるガンマ設定(1.8、2.0、2.2、2.35、2.5)から選択することができます。プロジェクターのデフォルトのガンマ値は2.2です。

あらゆる設定には、すべての原色（赤、緑、青）と二次色（黄、シアン、マゼンタ）を数百万ピクセルで表示するための、正確に定義された位相があります 設定数を変更すると、結果として得られる色が変わり、色の「三角形」を配列し直します。

## 内部テストパターン

プロジェクターには、テスターで機器を較正するための標準パターンがいくつか組み込まれています。以下の通りです。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 0 = オフ | 1 = カラーバー | 2 = ハッチ | 3 = バースト | 4 = 赤 |
| 5 = 緑 | 6 = 青 | 7 = 白 | 8 = 黒 | 9 = TI-赤 |
| 10 = TI-赤 | 11 = TI-青 | 12 = TI-ランプ | | |

## カラースペース

異なるカラースペースを使うと、投射された画像に異なる色彩が表示されます。次のカラーガンマから選択できます。

- Native
  これを選択して、プロジェクターのネーティブな色域を適用します
- EBU
  これを選択して、EBU色域を適用します。主に、PAL、SECAM、576i、576pなどを使用する入力デバイスに適しています。
- SMPTE
  これを選択して、SMPTE色域を適用します。主に、NTSC, 480i, 480pなどを使用する入力デバイスに適しています。
- カスタム
  これを選択し、プロジェクターのツールセットアプリケーションを通してお好みに従って色域をカスタマイズします。

## Lens To Midposition

一連のレンズシフト操作の後、この機能を使用してレンズを中央の位置に戻すことができます。

# ワープ

この機能により、投影された画像の歪み補正が可能になります。

- 水平キーストーン
  ▲▼を押して、投影角により水平キーストーンを補正します。
  「16ページ：7. 投射角度に起因するキーストーンの補正」を参照してください。
- 垂直キーストーン
  ▲▼を押して、投影角により水平キーストーンを補正します。「16ページ：7. 投射角度に起因するキーストーンの補正」を参照してください。
- 回転
  ◂▸を押して画像角度を補正します。

◂を押して、補正する角度を調整します。

補正角

▸を押して、補正する角度を調整します。

- ピンクッション/バレル
  ◂▸を押してピンクッション/バレルの歪みを補正します。

→

◂▸を押して、ピンクッションの歪みを補正して画像を補正します。

→

◂▸を押して、バレルの歪みを補正して画像を補正します。

- 左上隅
  ◂▸を押して、左上隅の画像バイアスを補正します。

→

◂▸を押して、左上隅の画像バイアスを補正して画像を補正します。

# OSDメニューの説明

- 右上隅
  ◂▸を押して、右上隅の画像バイアスを補正します。

→
◂▸を押して、右上隅の画像バイアスを補正して画像を補正します。

- 左下隅
  ◂▸を押して、左下の画像バイアスを補正します。

→
◂▸を押して、左下の画像バイアスを補正して画像を補正します。

- 右下隅
  ◂▸を押して、左下の画像バイアスを補正します。

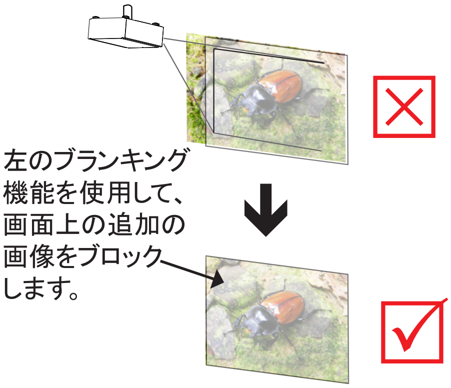
→
◂▸を押して、左下の画像バイアスを補正して画像を補正します。

- カスタムワープ
  プロジェクタのツールセットでカスタムワームファイルを作成できます。

- リセット
  すべての調整値(ワープ)をエ場出荷時の設定値に設定します。

## ブランキング

- 上部
  リモコンで▼▲を押して、投影された画像のブランキングエリアを調整します
- 下部
  リモコンで▼▲を押して、投影された画像の下部のブランキングエリアを調整します
- 左
  リモコンで◂▸を押して、投影された画像の左のブランキングエリアを調整します
- 右
  リモコンで◂▸を押して、投影された画像の右のブランキングエリアを調整します
- リセット
  すべてのブランキング機能をブランキング機能が有効になっていないデフォルト設定にリセットします。



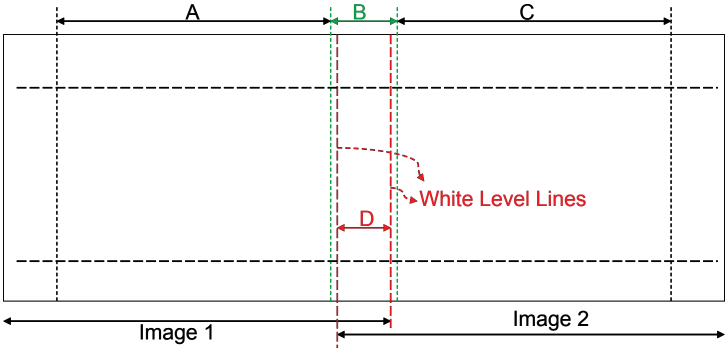
## ScenergiX

ScenergiXの機能は、画面上の画像の均一性を調整するために、同じ画像に同時に投影している複数のプロジェクタで利用されます。

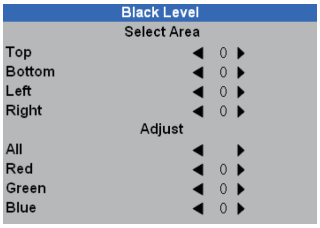
- ステータス
  「入力」を押して「オン」または「オフ」を選択します。ScenergiXの機能を有効にするには、その機能は「オン」に設定される必要があります。その機能が「オフ」に設定されている場合、ScenergiXの機能は無効になります。
- ホワイトレベル→ ホワイトレベルは、1つのプロジェクタの最後のピクセルが終わった場所で、他のプロジェクタから線を設定します。▼▲◀▶を押して、投影された画像の上部、下部、左、右の ホワイトレベルを調整します。

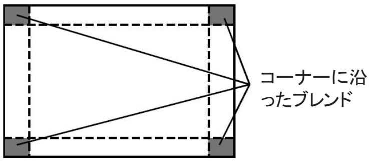
  以下の図に示すように、エリアDは、投影画像1と投影画像2が重なるエリアです。他のプロジェクタの最後のピクセルが終わった場所に、ホワイトレベルの線が設定されます。 カスタムカラースペースxおよびy、またはOSDの入力バランスとともにプロジェクタのツールセットで画像の一致のための色の調整を終了します。
- ブラックレベル→ブラックレベルの目的は、オーバーラップエリアエリアに対して非オーバーラップエリアを補正することです。そうすることにより、オーバーラップしている黒の明るさのレベルにブラックレベルが向上します。投影された画像の上部、下部、左、右のブラックレベルを調整します。
  プロジェクタの第一カラーを調整するために設定できます。例えば、「すべて」を選択して「赤色」、「緑色」、および「青色」の第一カラーを調整します。または、「赤色」、「緑色」、および「青色」を個別に調整することができます。

注：ブラックレベルの位置と4つのコーナーの機能の組み合わせは利用できません
注：黒レベルの調整とコーナーに沿ったブレンドの機能組み合わせは利用できません




黒レベル調整と黒い画像の場合、2つのプロジェクターに接続する必要があります。ゾーンBは、2つのプロジェクターの黒の合計です。右プロジェクターの非アクティブDMDが終わる位置に、黒レベルの調整ラインを設定します。左プロジェクターの非アクティブDMDが終わる位置に、黒レベルの調整ラインを設定します。プロジェクターAの黒レベルがゾーンBの黒レベルに一致するように調整します。プロジェクターCがゾーンBの黒レベルに一致するように調整します。



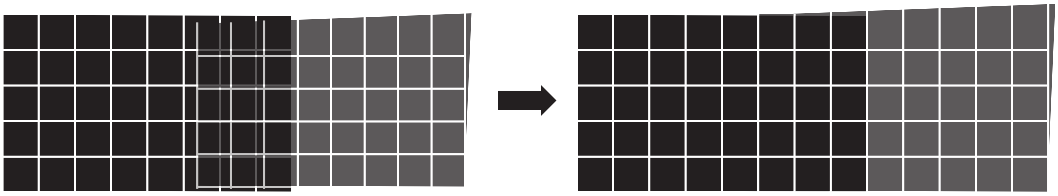



- リセット
  この機能は、プロジェクタのScenergiX設定をリセットします。ScenergiX機能が有効になっていないデフォルトに画像をリストアします。
- 調整ライン
  この機能が「オン」の場合、複数の画像を容易に調整するために、画像上に調整ラインが表示されます。リモコンで▼▲◀▶を押して、画像のラインの位置を調整します。

## 下の画像は2つのプロジェクタが同じ画像を投影している場合の例です。

1. 2つのプロジェクタを水平に配置し、2つの投影画像をオーバーラップさせ、テストグリッドパターンを持つフォーカス/ズームおよびレンズシフト機能を使用して、一致したグリッドサイズを持つブレンディングのために適切なオーバーラップエリアを設定します。

# OSDメニューの説明



2. 2つのプロジェクタのホワイトのカラーの一致がプロジェクタツールセットのP7 (R.G.B.C.M.Y.W)調整で終了しました。

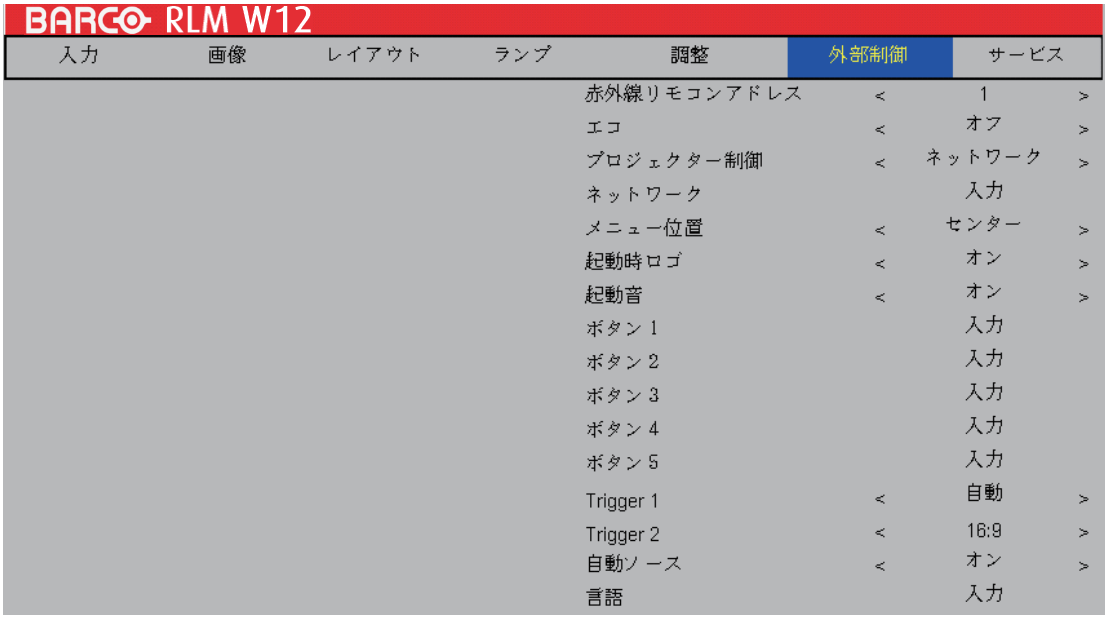
3. 2つのプロジェクタの明るさの一致は、ランプ電力で行うことができます(より高いルーメンスでプロジェクタを暗くすることにより調整を参照)。

4. ScenergiXを使用 -> ホワイトレベルから、オーバーラップ領域のサイズに基づき、ブレンディングサイズを設定します。
   ScenergiXを使用 -> ブラックレベルの位置からブラックレベルの補正の開始位置を調整します。
   ScenergiXを使用 -> ブラックレベルから、オーバーラップゾーンと非オーバーラップゾーンの明るさがブラックレベルで一致するように、非オーバーラップゾーンの明るさを上げます。

注1:　以下の許容可能なワープ、ブランキングおよびScenergiXの組み合わせは、基礎的なチップの仕様に基づいていることに留意してください。
注2:　ScenergiX / 4つのコーナーの組み合わせは、ブラックレベル位置が調整されてない場合利用可能です。
注3:　黒レベルが調整されないとき、コーナーに沿ったブレンドを利用できます。

| | | | | | | | | ScenergiX | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | ホワイトレベル | | ブラックレベル |
| | | | キーストーン | 回転 | ピン/バレル | 4コーナー | ブランキング | 上/下または左/右のみ | コーナーに沿ったブレンド | ブラックレベル |
| | | キーストーン | | X | X | X | X | X | X | X |
| | | 回転 | X | | X | X | X | X | X | X |
| | | ピン/バレル | X | X | | X | X | X | X | X |
| | | 4コーナー | X | X | X | | OK | OK | OK | X |
| | | ブランキング | X | X | X | OK | | OK | OK | OK |
| ScenergiX | ホワイトレベル | 上/下または左/右のみ | X | X | X | OK | OK | | | OK |
| | | コーナーに沿ったブレンド | X | X | X | OK | OK | | | X |
| | ブラックレベル | ブラックレベル | X | X | X | X | OK | OK | X | |

# コントロール




## 赤外線リモコンアドレス

この機能を使って、リモコンからプロジェクターのIRコード受信を設定します。デフォルト値は1です。自宅にプロジェクターのリモコンからコマンドを受け取る機器が他にある場合、リモコンコードを2に設定するようにお勧めします。

シリアル接続経由で2台のプロジェクターを実行しているとき、1台のプロジェクターのコードを「1」として、もう1台のプロジェクターのコードを「2」として設定できます。こうすることにより、2台のプロジェクターを同じリモコンでコントロールできます。

コード1のプロジェクターからコード2のプロジェクターにリモコンを切り替えるには、リモコンの[入力]と[アドレス]ボタンを同時に（約5秒間）押し下げます。リモコンのバックライトモジュールが点滅して切替を確認します。

## エコ

プロジェクターは、そのRS-232ポートと10/100 BASE-Tポート経由でネットワークに接続して2つの個々のボードでリモート操作を実行し、RS-232と10/100BASE-Tポートから信号ソースをコントロールできます。

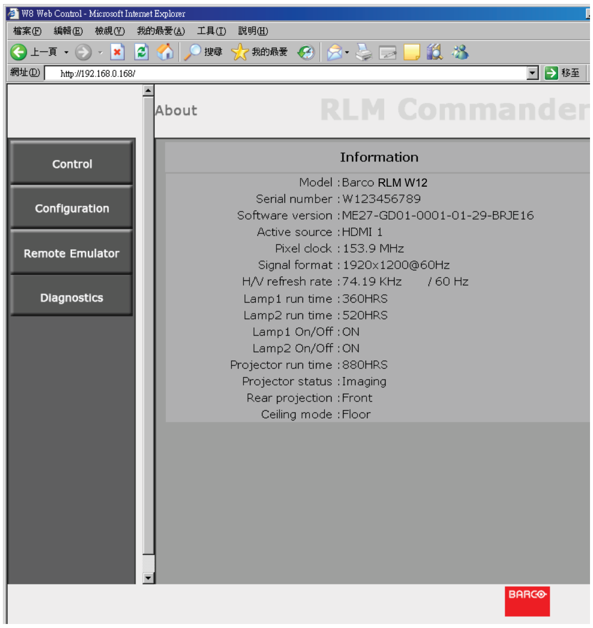
ネットワーク上でプロジェクターのリモート操作を行う必要がない場合、この機能をオンに設定してエコを有効にするようにお勧めします。これにより、10/100 BASE-Tボードのコントロールに使用される電源がオフになります。ただし、機能が有効になっている間はネットワーク上でプロジェクターをリモート操作することはできません。

オフに設定することで、機能は無効になります。電力を節約することはできませんが、ネットワーク上でプロジェクターをリモート操作できます。

## ネットワーク

ネットワーク経由でプロジェクターをコントロールするには、PCとプロジェクターに対してネットワークケーブルを接続した後、このOSD機能を使ってプロジェクターの関連するネットワーク情報（IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DHCP、など）を表示することができます。プロジェクターと同じサブネットマスク、ゲートウェイを持つ適切なIPアドレスでプロジェクターに接続されるPCを設定してください。プロジェクターのデフォルトのIPアドレスは192.168.0.100です。プロジェクターのネットワーク設定は、Webページコントロールまたはプロジェクターのツールセットアプリケーションを通してのみ変更できます。

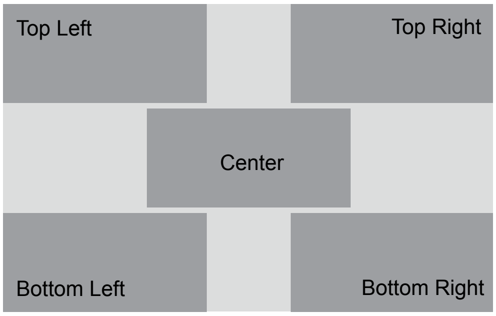
ネットワークを介してプロジェクタを制御するには、OSDメニューの「コントロール」 -> 「ネットワーク」で表示されるIPアドレスをウェブブラウザに入力してプロジェクタに接続してください。　以下のようなホームページが表示されます。




## メニュー位置

この機能を使って、OSDメニューが表示される画像のエリアを指定できます。

以下の図から分かるように、OSDメニューの表示はに5つの位置から選択できます。デフォルト設定は「センター」です。




## 起動時ロゴ

この機能を使って、起動画面にBarcoロゴを表示させることができます。Barcoロゴを表示するにはオンを設定し、ブランクの画像を表示するにはオフを設定します。

## 起動音

これをオンに設定すると起動中にサウンド効果が再生されます。オフに設定すると、起動を示すためのサウンド効果を一切再生しません。

## ボタン1～5

この機能を使って、それぞれ対応するボタンの画像ソースを指定します。

例えば、HDMI1としてボタン1を、RGB-Sとしてボタン2を割り当てた場合、

リモコンで 1 を押すと、画像はHDMI1から表示されます。

リモコンで 1 を押すと、RGB-Sから画像に切り替わります。

プロジェクターで8つの異なる入力ソース、すなわち、 HDMI1、HDMI2、RGB D-15(RGB-HV/SOG)、YUV1、YUV2(RGBHV/YUV2)、Composite Video(ビデオ)、S-Video、RGB-、SSDI/HDSDI/3Gを選択できます。

### Trigger1～2

プロジェクターには、2セットのTrigger出力が搭載されています。プロジェクターがオンになっているとき自動的にオンになるように、トリガーポート経由でプロジェクターに接続された2つの異なるデバイスを構成できます。ユーザーが希望するアスペクト比を選択しているときこの機能が作動しないように、起動まで2～3秒の遅延が設定されています。

| | |
|---|---|
| 5:4 | 5:4アスペクト比を選択するとき、Trigger1または2に12Vの電力を出力します。 |
| 4:3 | 4:3アスペクト比を選択するとき、Trigger1または2に12Vの電力を出力します。 |
| 16:10 | 16:10アスペクト比を選択するとき、Trigger1または2に12Vの電力を出力します。 |
| 16:9 | 16:9アスペクト比を選択するとき、Trigger1または2に12Vの電力を出力します。 |
| 1.88 | 1.88アスペクト比を選択するとき、Trigger1または2に12Vの電力を出力します。 |
| 2.35 | 2.35アスペクト比を選択するとき、Trigger1または2に12Vの電力を出力します。 |
| Letterbox | Letterboxアスペクト比を選択するとき、Trigger1または2に12Vの電力を出力します。 |
| Native | nativeアスペクト比を選択するとき、Trigger1または2に12Vの電力を出力します。 |
| 自動 | プロジェクターがオンになっているときTrigger 1または2に12Vの電力を出力します。 |

## 自動ソース

オフ: デフォルト設定。この機能を有効にすることによって、OSDメニューで選択しなくても済むように、プロジェクターがオンになる度に入力ソースが自動的に決定されます。

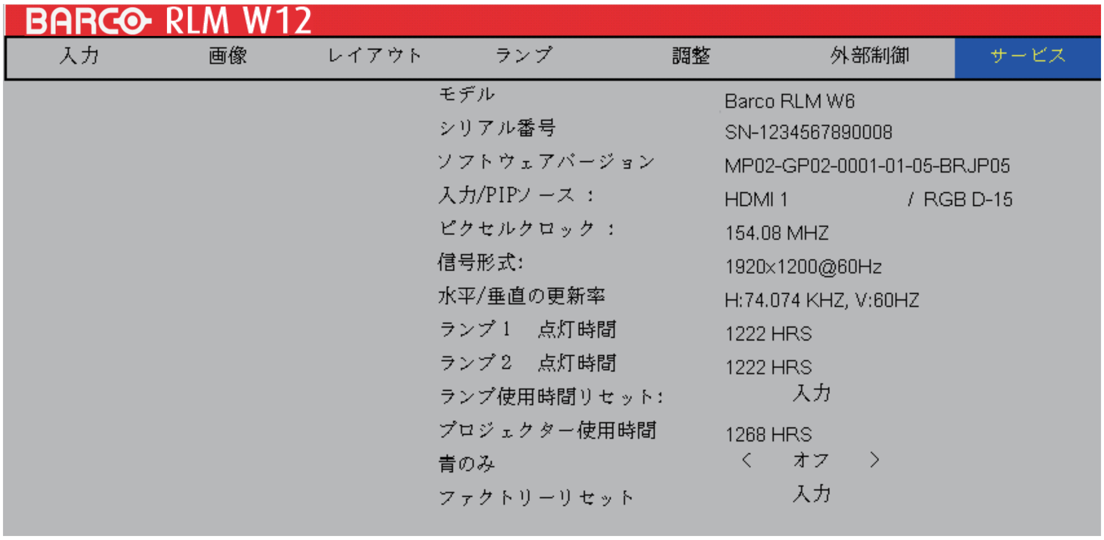
この機能をオフに設定するには、OSDメニューで画像入力のソースを指定し、プロジェクターで目的の画像を表示する必要があります。

## 言語

この機能を使ってOSDメニューに表示される言語を選択できます。

英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ポルトガル語、簡体字中国語、繁体字中国語、日本語、朝鮮語。

# サービス




## サービス

この項目に含まれる機能は、プロジェクターについての基本情報の表示に関係します。

*カスタムタイミングファイルのメモリは、ファクトリーリセット操作で消去されます。*

- モデル: プロジェクターの指定されたモデル番号。
- シリアル番号: プロジェクターの指定されたシリアル番号。
- ソフトウェアバージョン: プロジェクターにインストールされたソフトウェアのバージョン。
- 入力/PIPソース 現在のPIPソースを表示します。
- ピクセルクロック: 現在の入力信号のピクセルクロックを表示します。
- 信号形式: 現在の入力信号の形式を表示します。
- 水平/垂直の更新率: 現在の画像の水平および垂直の更新率を表示します。
- ランプ1 点灯時間: Lamp1の現在の点灯時間を表示します。
- ランプ2 点灯時間: Lamp2の現在の点灯時間を表示します。

  *通知: ランプの点灯時間が1500～2000時間に達した場合、または投射された画像が著しくぼんやりしている場合は、ランプを交換してください。*
- プロジェクター使用時間: プロジェクターの合計の運転時間を表示します。

## ランプ使用時間リセット

この機能を使って、ランプ1とランプ2の時間をゼロにリセットします。

*ランプを交換した後、OSDメニューに表示されるランプ使用時間の正確を期するために、ランプ使用時間をリセットするのを忘れないでください。*

## 青のみ

このオプションを有効にすると、青色のみが表示され、サービススタッフによる画像点検プロセスが容易になります。この機能の使用法に関する詳細な指示については、専門の修理技術者にお問い合せください。

## ファクトリーリセット

この機能を使って、OSDメニューの設定を工場出荷時のデフォルトに復元します。**この機能は信号、ネットワーク、起動ロゴ、言語、ランプ使用時間などのアイテムには適用されません。**

*ファクトリーリセットを実行するとき、プロジェクターで作成されるソースメモリ（タイミングファイル、など）はすべて消去されます。*

# ランプの交換

通常のプロジェクターランプの寿命は1200時間ほどで、その後交換が必要になります (ランプの設定によりランプの寿命は異なります)。OSDメニューから「44ページ:ランプ1 使用時間」にてランプのこれまでの使用時間が確認できます。投射された画像がはっきりとわかるほど暗くなってきたら、ランプの交換時期です。

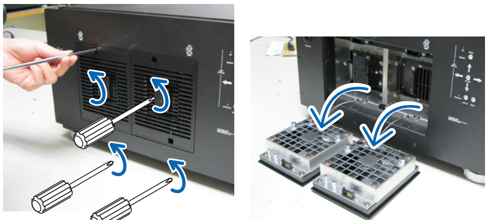
お使いのプロジェクターの認定ランプの購入は、お近くの販売店までお問い合わせください。

プロジェクターランプの交換方法

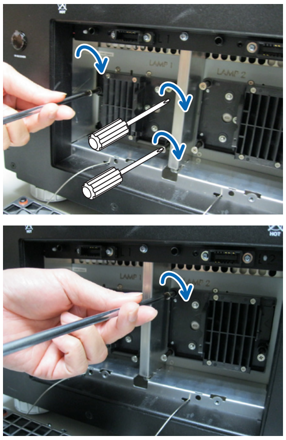
1. プロジェクターの電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。プロジェクターを約60分放置して充分に冷却してからランプを取り外して交換してください。

   プロジェクターの電源を切った直後は、プロジェクター内部のランプの温度は非常に高く、約200から300度になります。プロジェクターの温度が下がるのを待たずにランプの交換を行うと、やけどを負う危険性があります。ランプの交換を安全に行うためには、最低60分間はランプの温度が下がるのを待つ必要があります。

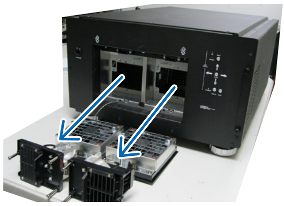
2. ランプのカバーを外します。



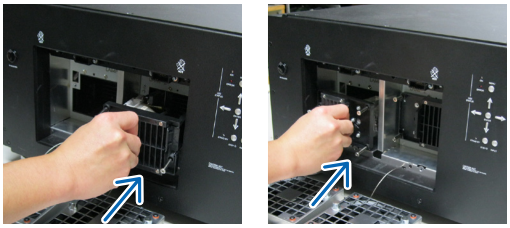
3. 図解の通り、ドライバーでネジを外します。



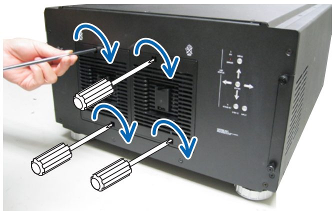
4. ランプカバーの金属棒を掴み、ランプを取り出します。



5. 図解に示されている方向に新しいランプを入れて、ランプ部品に装着してください。ドライバーを使ってネジを2本しっかりと締め、ランプが安定し、しっかりと接触するように固定してください。



6. ランプカバーを元に戻し、2本のネジでしっかりと固定してください。



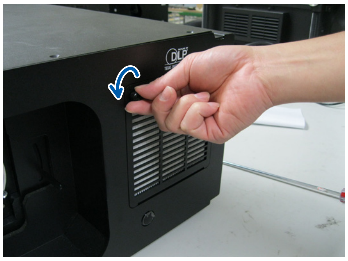
7. プロジェクターと電源を再度接続し、ランプ使用時間をリセットしてください。「44ページランプ1 使用時間」、「ランプ2 使用時間」をご覧ください。

# フィルターの交換

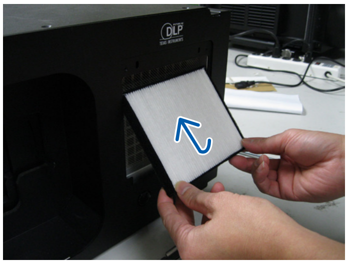
清浄な空気が内部に取り込めるよう、そしてフィルターの目詰まりでプロジェクターが過熱してしまうことを避けるために、フィルターを交換するようにしてください。

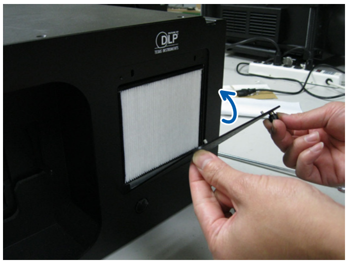
排気口のフィルターを交換するには、以下の図解に従ってください。

1. 排気口のカバーの2本のネジを取り外してください。

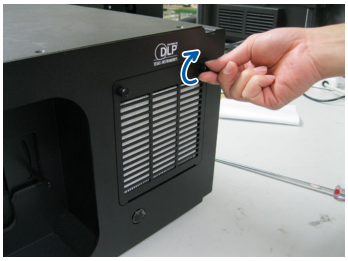


2. 新しいフィルターと交換します。





3. 再度フィルターカバーを取り付け、2本のネジで固定します。

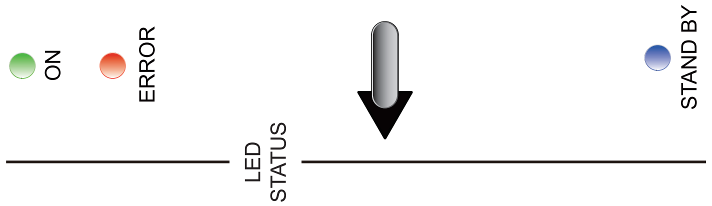


# LEDインジケータの簡単なトラブルシューティングと定義

次の表は、プロジェクターのよくある問題と解決方法を示したリストです。推奨される解決方法でも問題を解決できない場合、最寄りの販売店に連絡して修理を依頼してください。自分自身でプロジェクターを修理しないでください。

| 問題 | 考えられる原因 | 解決方法 |
|---|---|---|
| プロジェクターの電源をオンにできない | 1. プロジェクターのプラグが差し込まれていない可能性があります<br>2. プロジェクター背面のAC電源スイッチをチェックして、オンになっているか確認してください。<br>3. ACソケットが故障している可能性があります<br>4. レンズカバーが元の位置に正しく戻っていません | 1. プロジェクターの電源コードを壁コンセントに差し込んでください<br>2. 電源スイッチを「I」位置にしてください。.<br>3. ACソケットが正しく作動していることを確認してください。<br>4. レンズカバーが元の位置に正しく戻っていることを確認してください。 |
| プロジェクターの電源をオフにした後、オンにできない | 1. 電源をオフにした直後、2分間はプロジェクターの電源をオンにできません。<br>この機能は、ランプを保護するためのものです。 | 1. プロジェクターが完全に冷却するまで待ってから起動してみてください<br>（プロジェクターのスタンバイインジケータが青に変わります） |
| リモコンが正常に作動しない | 1. 電池の残量がないことが考えられます<br>2. 電池を間違った方向に挿入していることが考えられます<br>3. リモコンとプロジェクターのIRセンサーの距離が離れすぎているか、信号受信の最大角度を超えて操作している可能性があります。プロジェクターとリモコンの間に障害物があるか、IR受信機の傍に強い光源のある可能性があります。<br>4. Ø 3.5mm A有線リモコンをプロジェクターの3.5mmポートに接続していることが考えられます。<br>5. リモコンのアドレスがプロジェクターのアドレスと一致していません。 | 1. 新しい電池に取り替えてください<br>2. 電池が正しい方向に差し込まれていることを確認してください。<br>3. プロジェクターとリモコンの距離/角度を調整して再実行してください。プロジェクターとリモコンの間に障害物があったり、IRセンサーの傍に強い光源がある場合、これらの状況を解決して再実行してください。<br>4. 有線リモートケーブルを取り外すか、有線リモコンを使ってプロジェクターを操作してください。<br>5. リモコンの[入力]ボタンを押してから[アドレス]ボタンを押し続け（約5秒間）、リモコンのコントロールパネルが一度点滅したら手を離し再実行してください。 |
| プロジェクターの電源をオンにしてOSDメニューにアクセスすることはできるが、ピクチャが表示されない。 | 1. プロジェクターの電源が正しくオンになっていないか、正しい入力ソースを選択していない可能性があります。<br>2. ソースデバイスに正しく接続していないか、ソースがプロジェクターにまったく接続されていないことが考えられます。 | 1. プロジェクターの電源が正しくオンになっていることを確認したら、正しい入力ソースを選択してください。<br>2. プロジェクターと入力デバイスの接続をチェックしてください。 |
| 入力ソースとしてDVDプレーヤーにプロジェクターを接続したが、画像が乱れていたり半分に切れている。 | DVDプレーヤーがコンポーネントケーブル（RGB-SまたはRGBHV/YUV2）を通してプロジェクターに接続されており、それを順次走査に設定しています。 | DVDプレーヤーで順次走査機能を無効にしてください。 |
| ピクチャが薄暗く見える | 1. 画像の輝度、コントラスト、カラー、色調を正しく調整する必要があります。<br>2. ランプの交換時期に来ています。 | 1. 画像の輝度、コントラスト、カラー、色調を調整してください。<br>2. プロジェクターのランプを交換してください。 |
| 画像が明るすぎる、または明るいエリアがぼやけている | コントラストが高く設定されている可能性があります。 | コントラスト設定を下げてください。 |
| 画像が退色して見える、または暗いエリアが明るく見えすぎる | 画像の輝度が高く設定されている可能性があります。 | 輝度設定を下げてください。 |
| 画像がぼやける | 1. レンズの焦点が合っていない可能性があります。<br>2. プロジェクターの操作環境の温度や湿度が操作中に変わったため（つまり、寒い場所から暖かい場所、または乾燥した場所から湿気の多い場所に移動した）、プロジェクター内部に結露が生じた可能性があります。 | 1. フォーカスを調整してください。<br>2. プロジェクターの電源をオンにして、プロジェクターの湿気が蒸発するまで待ちます。 |
| 画像の色が青白く見える | 入力信号のタイプ(RGB-S/RGBHV/YUV2)が正しく接続されていないことが考えられます | プロジェクターと入力デバイス間の接続が正しいことをチェックしてください。 |
| 画像が時々ちらつく | 1. ケーブルが正しく接続されていないか、入力デバイスが故障していることが考えられます。<br>2. 問題が解決しない場合、ランプが故障していることも考えられます。 | 1. コネクタと入力デバイスが正しく接続されていることを確認し、入力デバイスが正常に運転されていることをチェックしてください。<br>2. プロジェクターのランプを交換してください。 |
| 投射された画像の色が不自然（すなわち、赤が青っぽく表示される） | 入力からのG/Y、R/Pr、B/Pbケーブルが入力に間違って接続されていることが考えられます。 | 入力ソースがプロジェクターに正しく接続されていることを確認してください。 |
| 冷却ファンのノイズが突然大きくなる | プロジェクター内部の温度が上がったことが考えられます。 | プロジェクター内部の温度が上昇すると、冷却ファンが高速で回転し、内部の熱を急速に放出します。 |
| プロジェクター背面パネルのLEDインジケータが赤く点滅する | ランプまたは冷却ファンが故障している可能性があります。 | 「59ページ: LEDステータス」の定義を参照してください。 |
| 1. 投射中、ランプが突然停止し、ピクチャが見えなくなる。<br>2.プロジェクターの電源がオンになっているのに、ランプが点灯しない。 | ランプが損傷していることが考えられます。プロジェクター背面のLEDインジケータをチェックして、赤く点滅していないか調べてください。 | ランプが寿命に達しました。交換してください。 |

# LEDステータス




## スタンバイ

| | |
|---|---|
| 青が点灯 | プロジェクターがスタンバイモードに入っていることを示しています。これは、[ソフト電源]ボタンを押したためプロジェクターの電源がオンではありませんが、電源に接続されていることも意味します。 |
| インジケータがオフ | これは、プロジェクターの電源がオンになっていて正常に作動しているか、プロジェクターが電源に接続されていないことを示します。 |

## オン

| | |
|---|---|
| 緑が点灯 | これは、プロジェクターの電源がオンになっていて正常に作動していることを示します。 |
| 緑が点滅 | これは、プロジェクターが現在暖機運転をしているか、冷却中であり、ボタン操作に応答しないことを示します。 |
| インジケータがオフ | これは、プロジェクターが現在スタンバイモードに入っていることを示します。 |

## エラー

| | |
|---|---|
| 赤が一度点滅する | プロジェクターのランプが故障しています。ランプが損傷していないか、正しく取り付けられているかチェックしてください。 |
| 赤が2度点滅する | ランプカバーが元の位置に正しく戻っていません。 |
| 赤が3度点滅する | プロジェクター内部の冷却ファンが作動していません。専門技術者に連絡してください。 |
| 赤が4度点滅する | プロジェクターの温度が高すぎます。換気装置のスロットを清掃するか、電源コードを抜いて問題を解決してください。 |
| 赤が5度点滅する | プロジェクターのフィルターが正しく挿入されていないことが考えられます。換気スロットをチェックし、フィルターが正しく元通りに挿入されていることを確認してください。 |

| Status | Blue (Standby) | Green (Power) | Red ( Issue ) |
|---|---|---|---|
| 1. Standby | | | |
| 2. Lamp is approaching end of life | | repeat | repeat |
| 3. Cooling / Warm up | | | |
| 4. Power on / Normal | | | |
| | | | |
| 5. Lamp fail | | | repeat |
| 6. Lamp door open | | | repeat |
| 7. Fan fail | | | repeat |
| 8. Over Temperature | | | repeat |
| 9. System Error | | | |

***注意: エラーコードはプロジェクタのツールセット(rs 232またはip)およびウェブブラウザにより、容易に読み取ることができます。***

***注意: 上のLED点滅パターンの各ステップの時間は500ミリ秒です。例えば、「冷却/ウォームアップ」状態の場合、緑のLEDは500ミリ秒オンになってから500ミリ秒オフになり、その後上のLEDパターンを繰り返します。***

# 仕様

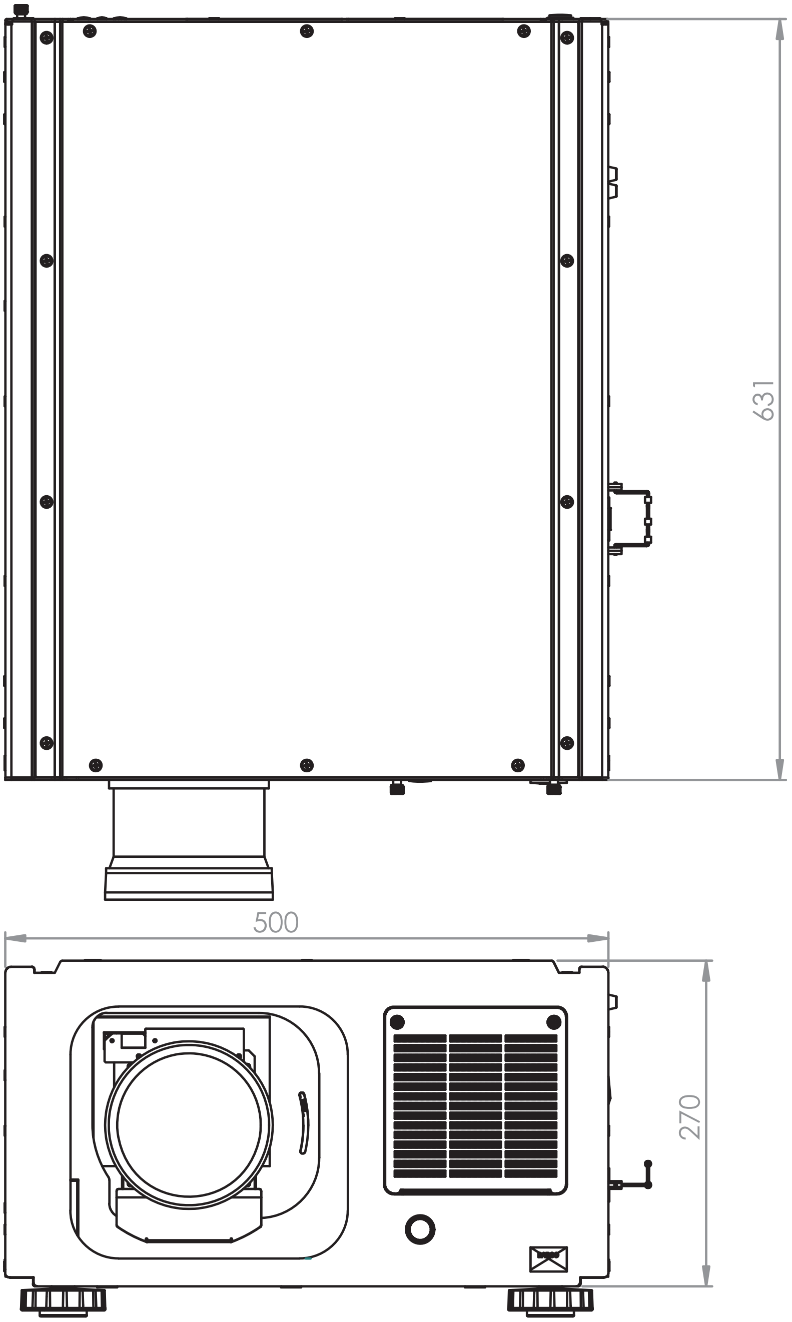
| 説明 | 仕様 |
|---|---|
| 明るさ | 10500 ANSI ルーメンス (通常時) |
| 解像度 | 1920 × 1200 (実効解像度) |
| マイクロディスプレイ | 3 × DLP 0.96" DMD |
| コントラスト比 | 1700 : 1 (通常時) |
| 周辺照度比 | 85% |
| ランプ | 2 × 400W UHP |
| 投射レンズ - 投射比 | • R9862000-TLD+ (0.73:1)<br>• R9840775-TLD+ (1.2:1)<br>• R9862010-TLD+ (1.5 - 2.0:1)<br>• R9862020-TLD+ (2.0 - 2.8:1)<br>• R9862030-TLD+ (2.8 - 4.5:1)<br>• R9862040-TLD+ (4.5 – 7.5:1)<br>• R9829997-TLD+ (7.5 - 11.2)<br>• R9862005-TLD+ Ultra (1.25-1.6) |
| 入出力ポート | 1 × YUV1<br>1 x Sync In<br>1 × Sビデオ<br>2 × HDMI<br>1 × RGBHV/YUV2<br>1 × 10/100 BASE-T<br>1 × RS-232<br>2 × 12Vトリガー<br>1 × 赤外線エクステンダー<br>1 x SDI/HDSDI/3G<br>1 × ビデオ端子<br>1 x Sync Out<br>1 x DVI (デュアルリンク) |
| 一次電圧範囲 | 100V - 240V (±10%) |
| 消費電力 | RJ45が無効の場合、最大電力2W<br>RJ45が有効の場合、5W |
| 最高入力解像度 | 1920 × 1200 |
| 動作温度: | 0～40゜C<br>注1: DMDの通常動作温度は10~65゜Cです。<br>注2: 10分程度であれば、DMDを0~10゜C以下の環境でも、DMD にダメージを与えることなくお使いいただけます。 |
| 通常動作時の騒音レベル | 43 dBA未満 |
| エコモード時の騒音レベル | 40 dBA未満 |
| 重量 | 32 kg |

# プロジェクターの仕様

| 信号タイプ | 解像度 | フレーム率 | ビデオ | S-Video | SCART (RGB-S) | Y-Pr-Pb (YUV1) | HD15、BNC - RGBHV | HD15、BNC - YUV | HDMI - RGB | HDMI - YUV | 参照 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PC | 640×480 | 59.94 | | | | | × | | × | | VESA DMT, CEA-861D 形式 1 |
| | 640×480 | 74.99 | | | | | × | | × | | VESA DMT |
| | 640×480 | 85 | | | | | × | | × | | VESA DMT |
| | 800×600 | 60.32 | | | | | × | | × | | VESA DMT |
| | 800×600 | 75 | | | | | × | | × | | VESA DMT |
| | 800×600 | 85.06 | | | | | × | | × | | VESA DMT |
| | 848×480 | 47.95 | | | | | × | | × | | VESA CVT |
| | 848×480 | 59.94 | | | | | × | | × | | VESA CVT |
| | 1024×768 | 60 | | | | | × | | × | | VESA DMT |
| | 1024×768 | 75.03 | | | | | × | | × | | VESA DMT |
| | 1024×768 | 85.03 | | | | | × | | × | | VESA DMT |
| | 1280×720 | 47.95 | | | | | × | | × | | VESA GTF |
| | 1280×1024 | 60.02 | | | | | × | | × | | VESA DMT |
| | 1280×1024 | 75.02 | | | | | × | | × | | VESA DMT |
| | 1280×1024 | 85.02 | | | | | × | | × | | VESA DMT |
| | 1400×1050 | 60 | | | | | × | | × | | VESA CVT |
| | 1600×1200 | 60 | | | | | × | | × | | VESA DMT |
| | 1920×1080 | 47.95 | | | | | × | | × | | VESA CVT |
| | 1680×1050 | 59.94 | | | | | × | | × | | VESA CVT |
| | 1920×1200 | 50.00 | | | | | × | | x | | PCLK = 158.25MHz |
| | 1920×1200 RB | 59.94 | | | | | × | | × | | VESA CVT, PCLK=153.75MHz |
| | 1920×1200 RB | 60 | | | | | × | | × | | VESA CVT, PCLK=154MHz |
| アップル Mac | 640×480 | 66.59 | | | | | × | | × | | VESA DMT |
| | 832×624 | 74.54 | | | | | × | | × | | VESA DMT |
| NTSC | NTSC (M, 4.43) | 59.94 | × | × | | | | | | | ITU-R BT.1700、SMPTE 170M |
| PAL | PAL (B、G、H、I) | 50 | × | × | | | | | | | ITU-R BT.1700 |
| | PAL (N) | 50 | × | × | | | | | | | ITU-R BT.1700 |
| | PAL (M) | 59.94 | × | × | | | | | | | ITU-R BT.1700 |
| SECAM | SECAM (M) | 50 | × | × | | | | | | | ITU-R BT.1700 |
| SDTV | RGBS | 50 | | | × | | | | | | RS-170、SCART、ITU-R BT.656 |
| | 1440x480i | 60 | | | | | | | × | × | CEA-861-D形式 6 & 7 |
| | 1440x576i | 50 | | | | | | | × | × | CEA-861-D形式 21 & 22 |
| | 480i | 59.94 | | | | × | | | | | SMPTE 125M |
| | 576i | 50 | | | | × | | | | | ITU-R BT.601 |
| EDTV | 480p | 59.94 | | | | × | × | × | × | × | SMPTE 293M、CEA-861-D形式2 & 3 |
| | 576p | 50 | | | | × | × | × | × | × | ITU-R BT.1358、CEA-861-D形式17 & 18 |
| HDTV | 1035i | 60 | | | | x | × | × | × | × | SMPTE 260M |
| | 1080i | 50 | | | | × | × | × | × | × | SMPTE 274M、CEA-861-D形式 20 |
| | 1080i (Aus) | 50 | | | | × | × | × | × | × | SMPTE 295M |
| | 1080i | 59.94 | | | | × | × | × | × | × | SMPTE 274M、CEA-861-D形式 5 |
| | 1080i | 60 | | | | x | × | × | × | × | SMPTE 274M、CEA-861-D形式 5 |
| | 720p | 50 | | | | × | × | × | × | × | SMPTE 296M、CEA-861-D形式 19 |
| | 720p | 59.94 | | | | x | × | × | × | × | SMPTE 296M、CEA-861-D形式 4、 |
| | 720p | 60 | | | | × | × | × | × | × | SMPTE 296M、CEA-861-D形式 4 |
| | 1080p | 23.98 | | | | x | × | × | × | × | SMPTE 274M、CEA-861-D形式 32 |
| | 1080p | 24 | | | | × | × | × | × | × | SMPTE 274M、CEA-861-D形式 32 |
| | 1080p | 25 | | | | x | × | × | × | × | SMPTE 274M、CEA-861-D形式 33 |
| | 1080p | 29.97 | | | | × | × | × | × | × | SMPTE 274M、CEA-861-D形式 34 |
| | 1080p | 30 | | | | x | × | × | × | × | SMPTE 274M、CEA-861-D形式 34 |
| | 1080p | 50 | | | | × | × | × | × | × | SMPTE 274M、CEA-861-D形式 31 |
| | 1080p | 59.94 | | | | x | × | × | × | × | SMPTE 274M、CEA-861-D形式 16 |
| | 1080p | 60 | | | | x | × | × | × | × | SMPTE 274M、CEA-861-D形式 16 |

| タイミング | SDIリンクモード | 信号標準 | カラーエンコード | サンプリング構造 | ビット深度 | テスト済みケーブル長 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| NTSC | SD | SMPTE 259M-C 270Mbps SD | YCbCr | 4:2:2 | 10 | 480m |
| PAL | SD | SMPTE 259M-C 270Mbps SD | YCbCr | 4:2:2 | 10 | 480m |
| 1035i 60 | HD-Single | SMPTE 292M292M 1.5Gbps HD | YCbCr | 4:2:2 | 10 | 230m |
| 1080i 59.94 | HD-Single | SMPTE 292M292M 1.5Gbps HD | YCbCr | 4:2:2 | 10 | 230m |
| 1080i 60 | HD-Single | SMPTE 292M292M 1.5Gbps HD | YCbCr | 4:2:2 | 10 | 230m |
| 1080P 30 | HD-Single | SMPTE 292M292M 1.5Gbps HD | YCbCr | 4:2:2 | 10 | 230m |
| 1080P 25 | HD-Single | SMPTE 292M292M 1.5Gbps HD | YCbCr | 4:2:2 | 10 | 230m |
| 1080i 50 | HD-Single | SMPTE 292M292M 1.5Gbps HD | YCbCr | 4:2:2 | 10 | 230m |
| 1080P 24 | HD-Single | SMPTE 292M292M 1.5Gbps HD | YCbCr | 4:2:2 | 10 | 230m |
| 720P 60 | HD-Single | SMPTE 292M292M 1.5Gbps HD | YCbCr | 4:2:2 | 10 | 230m |
| 720P 50 | HD-Single | SMPTE 292M292M 1.5Gbps HD | YCbCr | 4:2:2 | 10 | 230m |
| 1080Sf 25 | HD-Single | SMPTE 292M292M 1.5Gbps HD | YCbCr | 4:2:2 | 10 | 230m |
| 1080Sf 30 | HD-Single | SMPTE 292M292M 1.5Gbps HD | YCbCr | 4:2:2 | 10 | 230m |
| 1080P 50 | 3G Level A | SMPTE 424M 3 Gbps | YCbCr | 4:2:2 | 10 | 130m |
| 1080P 59.94 | 3G Level A | SMPTE 424M 3 Gbps | YCbCr | 4:2:2 | 10 | 130m |
| 1080P 60 | 3G Level A | SMPTE 424M 3 Gbps | YCbCr | 4:2:2 | 10 | 130m |
| 1080P 50 | 3G Level B | SMPTE 424M 3 Gbps | YCbCr | 4:2:2 | 10 | 130m |
| 1080P 59.94 | 3G Level B | SMPTE 424M 3 Gbps | YCbCr | 4:2:2 | 10 | 130m |
| 1080P 60 | 3G Level B | SMPTE 424M 3 Gbps | YCbCr | 4:2:2 | 10 | 130m |

注： 上のリストにない信号は、RLM W8でサポートされていない場合があります


631
500
270

•